



信仰による義認

目次

ルター：時の人	5
罪の問題	10
わたしたちを救うための神のご計画	15
わたしたちの唯一の希望、イエス・キリスト	20
信仰による義認	26
義認する信仰	31
悔い改めへの招き	36
許し	41
神から生まれる	47
聖化	52
今日のための義	57
キリストにあって完全	62
第三天使のメッセージそのもの	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.93, No.4

編集&発行：
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト :Advent Digital on the front cover and Map Resources on pp. 4, 46, 72; Adobe Stock pp. 25, 72.

まえがき

500年前、マルチン・ルターという名の修道僧が95カ条の提題を発行し、そうすることによって大なるプロテスタントの覚醒の先駆けとなり、当時の諸教会において改革の運動を始めました。彼は長年信じられてきた多くの信念や慣習に挑戦し、救い主キリストをキリスト教世界の前面に紹介しました。ルターは多くの人々を聖書研究へ導く運動を起しました。今日多くのクリスチャンはキリストとその地上におけるご生涯について様々な意見を持ち、議論しています。多くの人々がキリストの義とは何かについて議論している一方で、神は今日、一日一日の生き方によってご自分の義を世に示す人々を探しておられます。

「真理を擁護して議論するだけでは十分ではない。もっと真理の価値について説得力のある証拠は、信心深い生活において見られる。そしてこれなしには、もっとも決定的な供述も重みと支配的な力に欠けるのである。なぜなら、わたしたちの力は神の聖霊によってこのお方とつながっていることにあるからである」(レビュー・アンド・ヘルド 1888年3月20日)

「信心深い生活を送ることを願うすべての人がわたしたちの聖なる贖い主イエスを通して恵みと力を得るために豊かな備えがなされてきた。……神の僕たちは自分たちの力の源であられるお方から平安と力を引き出さなければならない。そしてそうすることによって、彼らは幸福と平安に満ちた生活を見出すようになる。……存在全体が神に献身しなければならない。なぜなら、わたしたちの尊い救い主は、分かたれた心にあずかることは決してなさらないからである。わたしたちの傾向と願望は聖霊の支配下になくってはならない。そのとき、わたしたちは信仰の良き戦いをたたかうために強められるのである。」(彼を知るために 92)

「〔キリスト〕は愛された弟子の口によって次のように言われた、『見よ、わたしはすぐに来る』。そして、ヨハネは『主イエスよ、きたりませ』と答える。イエスはこれらの言葉をご自分の民に対する警告また励ましとして語られた。そうであれば、これらに注意を払うべきではないだろうか。主は、ご自分を見張り待っているのを見出される者は忠実な者であると言われた」(キリストを映して 258)。

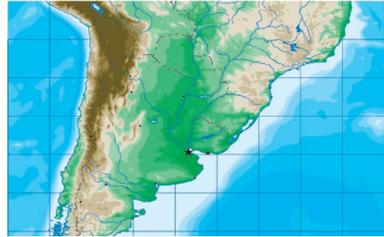
わたしたちが今期教科を研究する際に、このお方の霊の導きに従い、キリストの義を自分たち自身のものとするようにというのが、神に対するわたしたちの真剣な祈りです。わたしたちが自分の生涯を完全に神の御導きに明け渡すとき、神はわたしたちを自分たちの生ける救い主キリストの偉大なメッセージを周りの人々に伝え、こうして主の来臨を早める器として用いて下さいます。わたしたちが皆、より深い経験へと導かれ、心を尽くして主に帰り、自分たちの至らない点を告白し、罪が許されたという確証を得て、このお方に清めていただき、こうしてこのお方の義がわたしたちのものとなりますように。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

アルゼンチンにある南アメリカ南部の本部改修のために

SDARM 南アメリカ南部連合はアルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイの諸国のために働いています。本部はアルゼンチン、すなわち 4150 万人近くの人口を持つ国家にあります。パラグアイは 680 万人、ウルグアイは 340 万人で、合わせて総計 5200 万人近い魂にこの連合が奉仕しています。



アルゼンチン共和国は南アフリカで第二の家であり、世界で八番目に大きな国です。アルゼンチンの大半 (76.5%) はローマ・カトリックです。11.3%は無宗教、9%がプロテスタント (主にペンテコステ派)、そして 2%未満が他の宗教です。

この国に SDARM が来たのは、エウジェニオ・ラコフスキー兄弟が到着し、彼の前にベッサラビアから移民してきていた何人かの兄弟たちと喜んで会った 1927 年の時でした。熱い思いをもって、彼らは礼拝の小さなグループを形成しました。サン・ニコラス市で開催された彼らの最初の集会は 1930 年 4 月でした。そのとき魂が幾人かバプテスマを受け、海外の文書伝道者と共に文書伝道の働きが組織されました。1936 年にここで最初の礼拝堂が献堂されました。

それから多くの年月が経ち、今日、首都ブエノスアイレスにある本部として使用している建物は、深刻な劣化を見せています。それは新しい運営環境、健康集会や料理クラスのための集会所、わたしたちを訪問する兄弟たちのためのより良い宿泊場所を提供するために、緊急に全般的な改修と拡張を必要としています。この終わりの時代に、この規模の人口の中で適切に表わすことは神の働きのためにまさにふさわしいことです。数年間この経済状況は強くありませんでしたので、世界中の兄弟の皆さんにこの働きの資金援助においてわたしたちと手を合わせてくださるようお願いいたします。

わたしたちはこの要請を読んで、世界中の信徒の皆さんがわたしたちの大きな急を要する必要を理解し、惜しみなく嘆願に答えてくださるようお願いしています。皆さんの親切な惜しみない心にあらかじめお礼申し上げます。

南アメリカ南部連合の皆さんの兄弟より

ルター：時の人

「見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。」(ハバクク 2:4)

「熱心で、献身的で、神のほかなにも恐れることを知らず、聖書以外のどんな信仰の基準をも認めなかったので、ルターは、実に、その時代のための人物であった。神は彼を用いて、教会の改革と世界の啓蒙のために大きな働きを成し遂げられた。」(各時代の大争闘上巻 139)

推奨文献： 各時代の争闘上巻 139-169; 243-255

日曜日

10月1日

1. ルター光を見出す

- a. 初めて聖書を見いだしたときのマルチン・ルターの経験を、どの譬が描写していますか(マタイ 13:44-46)。

「ある日、ルターは、大学の図書館で本を調べていたときに、ラテン語の聖書を発見した。……彼は、福音書や使徒書簡の一部が、公の礼拝のときに朗読されるのを聞き、それが聖書の全部であると思っていた。ところが彼は、今初めて、神の言葉の全体を見たのである。畏敬と驚きをもって、彼はその神聖なページをくった。」(各時代の争闘上巻 142)

- b. ルターがもっと深く研究しているときに、どのような効果が彼に及びましたか(詩篇 119:130; エレミヤ 15:16)。

「キリストの愛を味わう者はたえずもっと求める。だがそれ以外のものは何も求めない。彼には世の富も栄えも楽しみも、魅力がない。彼の心は、『もっとあなたを』とたえず叫びつづける。」(各時代の希望上巻 221)

2. 光が闇を貫く

- a. ルターが自分の聖書をさらに研究していったときに、自分自身の命について、彼はどのような確信を感じましたか（イザヤ 6:5）。

「天使が彼のそばにいて、神のみ座からの光が、真理の宝を彼に理解させた。彼は、神の怒りを招くことを常に恐れていたが、今、これまでになく、自分の罪人としての状態を痛感した。

彼は罪からの解放と神との平和を熱心に求めて、ついに修道院にはいり、修道院生活に身をささげることになった。」（各時代の大家争闘上巻 142）

- b. ルターが苦行という痛々しい行為を通して許しと平安を見いだそうとしていたときに、神は彼に何を教えようとしておられましたか（テモテ第一 1:15）。

「敬虔なシュタウピッツがルターに神のみ言葉を示して、自分から目をそらし、神の律法を犯したことに對する永遠の刑罰について考えることをやめ、彼の罪を許す救い主、イエスを仰ぎ見るように命じた。『罪のために自分を苦しめることをせず、贖い主の腕の中に自分自身を投げ入れよ。彼を信頼せよ。彼の生涯の義と彼の死による贖罪に信頼し、……神のみ子に耳を傾けよ、彼はあなたに神の恵みの確証を与えるために、人となられた。』『まずあなたを愛された彼を愛せよ。』」（同上 143, 144）

- c. ルターがピラトの階段をひぎで登っているときに、聖書のどの中心的な真理が彼に明らかにされましたか（ローマ 1:17）。

「当時、法王の教書が發布されて、『ピラトの階段』をひぎまらずに上るものにはみな、免罪が約束されていた。この階段は、救い主がローマの法廷を出るときに降りられたもので、奇跡的にエルサレムからローマに移されたものであると言われていた。ルターは、ある日、敬虔な思いをもってこの階段を上っていた。すると突然、雷のような声が、「信仰による義人は生きる」と言ったように思われた（ローマ 1:17）。彼はすぐに立ち上がり、恥と恐怖の念にかられて、その場を急いで去った。この聖句は、彼の一生を通じて、彼に力を与えた。そのとき以来、彼は、人間の行為によって救いを得ようとすることの誤りと、キリストの功績を絶えず信じることの必要を、これまでよりもっと明瞭に悟った。」（同上 145）

3. 信仰を通して恵みによって救われる

- a. 1517年にルターが免罪符の力に対して95か条の提題を発行したとき、彼はわたしたちの行いが罪を贖うことはできないことをどのように教えましたか（ガラテヤ 2:16; 使徒行伝 20:21）。

「ルターは、人々に、罪のいまわしい性質を告げ、人間は自分自身の行為によっては、そのとがを減じることができないと教えた。神に対する悔い改めと、キリストに対する信仰以外に、罪人を救うことができるものはない。キリストの恵みを買うことはできない。それは、無償で与えられる賜物である。彼は人々に、免罪符を買ったりしないで、十字架につけられた贖い主を信仰をもって見つめることを勧めた。彼は、自分が難行や苦行によって救いを得ようとしたが得られなかった苦い経験を語り、自分を見ないでキリストを信じることによって平和と喜びを得たことを、聴衆にはっきり述べたのである。」（各時代の犬争闘上巻 150）

- b. わたしたちはどのようにのみ罪から救われますか。まただれによってですか（ローマ 1:16; エペソ 2:8-10）。

「ルター」の論題は、罪を許し、その罰を免除する力が、法王にも他のどんな人にも与えられていないことを示していた。……論題はまた、キリストの福音は教会の最も価値のある宝であること、そしてそこにあらわされた神の恵みは、悔い改めと信仰とによって求めるすべての者に、惜しみなく与えられるものであることを明示していた。」（同上 151）

- c. だれから、わたしたちはイエスを信じる救う信仰を得ますか。またわたしたちはどのようにしてそれを増すことができますか（ローマ 10:9; ルカ 17:5）。

「神の賜物を受け入れることのできる信仰は、それ自体が賜物であり、それはすべての人に幾分か与えられている。神のみ言葉をわがものとするために信仰を働かせるときに信仰は成長する。信仰を強めるためには、神のみ言葉にたびたび接触しなければならない。」（教育 300）

「さて、兄弟たちよ、あなたがたは自らを疑いと疑問のうちに教育してきた分だけ、信仰の方面に自らを教育しなければならない。あなたは信仰を増し加えることができるように、信仰を語り、信仰を生き、信仰を実行しなければならない。」（信仰と行い 78）

4. 聖書：わたしたちの信仰の基礎

- a. 聖書の権威に対するルターのどの態度が、改革の革新的な原則となりましたか(コロサイ 2:8; イザヤ 8:20)。

「キリスト者は、聖書の権威に基づいた教理以外は受け入れてはならないと、〔ルター〕は断言した。この言葉は、法王至上権の、まさにその根底を危うくするものであった。この言葉には、宗教改革の極めて重大な原則が含まれていたのである。」(各時代の大争闘上巻 146)

- b. ルターの教えの効果に対抗しようとして、1529年にドイツの皇帝は宗教の自由を終わらせ、ローマカトリック教会の権威を復活させる法令を準備しました。この法令に対するドイツの諸侯たちの抗議書に含まれていたどの二つの原則が、プロテスタント主義の本質を構成していますか(使徒行伝 4:18-20; 5:28, 29; マタイ 15:8, 9)。

「この有名な抗議書に含まれた原則は、……プロテスタント主義の本質そのものであった。この抗議書は、信仰の問題に関する人間の二つの害悪に抗議している。その第一は、為政者の侵害であり、第二は、教会の独断的権力であった。プロテスタント主義は、これらの害悪の代わりに、政権以上に良心の能力を重んじ、目に見える教会以上に神の言葉の権威を認める。それは、まず第一に、政権が神の事柄に関与するのを拒み、預言者や使徒たちと共に、『人に従うよりは、神に従うべきである』と言う。それは、カール五世の王冠の前で、イエス・キリストの王冠を掲げる。しかし、さらに一歩進めて、すべての人間の教えは神の言葉に従うべきである、という原則を規定する。」そればかりでなくて、抗議者たちは、自分たちが真理と信じることを自由に語る権利を主張した。彼らは、信じて従うだけでなく、神の言葉が提示していることを教えたいと望み、司祭や政権の干渉権を拒んだ。シュパイエルの抗議書は、宗教的弾圧に対する重大な証言であった。そして、それは、良心の命じるままに神を礼拝する全人類の権利の主張であった。」(同上 252, 253)

「神と神の言葉に反対して働くサタンの方法は変わっていない。彼は、十六世紀におけると同様に、今もなお、聖書を生活の規準にすることに反対している。現代においては、改革者たちの教義や信条からの大きな逸脱が見られる。われわれは、信仰と行為の基準は、聖書、そして聖書だけであるというプロテスタントの大原則に、帰らねばならない。」(同上 253, 254)

5. み言葉は魂に命をもたらす

- a. 神のみ言葉はそれを聞き、読む人々に何をしますか（詩篇 119:103-104）。
- b. 神のみ言葉のルターの教えは、どのように彼が教えた人々に影響を及ぼしましたか（ローマ 10:17; ヘブル 4:12）。

「ルターがすべての教義とすべての主張を吟味した神の言葉は、人々の心をえぐるもろ刃の剣のようであった。至る所で霊的向上の欲求が起こった。長年起こったこともないような、義に対する飢えと渇きが至る所に起こった。長い間、人間の儀式と地上の仲保者に向けられていた人々の目が、今や悔い改めと信仰をもってキリストと彼の十字架とに向けられた。」(同上 154)

- c. わたしたちが神のみ言葉を研究し従うとき、何が起こりますか（ヨハネ 17:17）。

「聖書は、品性を改変する大きな能力である。……神のことばを学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。また、聖霊が降下して、罪を指摘する。すると、心の中に生じた信仰は、キリストに対する愛によって活動しはじめ、からだも心も魂も、すべてをキリストのかたちにより一致させるのである。こうして神は、み心を行なうためにわたしたちをお用いになるのである。与えられた力は、内から外へと作用して、わたしたちに伝えられた真理を他に伝えさせるのである。」(キリストの実物教訓 74)

個人的な復習問題

1. 初めて聖書を見つけたときのルターの反応はどのようなものでしたか。
2. ピラトの階段を上っていたとき、ルターにどの誤謬が明らかにされましたか。
3. どの方法によってのみ、罪人は救われることができますか。
4. 今日、わたしたちはどのようにしてプロテスタント主義の本質を掲げ続けることができますか。
5. 品性を変えることにおいて、聖書はどの役割を果たしますか。

罪の問題

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」（ローマ 3:23）

「人類家族はみな神の律法を犯した。そして、律法の違反者として人はまったく墮落している。なぜなら、彼らは神の敵であり、何も善いことをする力がないからである。」（ヘレケッド・メッセージ 1巻 321）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 24-52

日曜日

10月8日

1. 人類のための神のご目的

- a. だれのかたちにアダムとエバは創造されましたか。そしてその目的は何ですか（創世記 1:26, 27, 31; イザヤ 43:7）。

「アダムが創造主のみ手によってつくられたとき、彼の肉体と知能と霊性は、神のみかたちをそなえていた。「神は自分のかたちに人を創造された」としるされている。神の御目的は、人が長く生きれば生きるほど、ますます、はっきりと神のみかたちをあらわすこと、すなわちなおいっそう明らかに創造主の栄光を反映することであった。人間のあらゆる才能は発達することが可能であって、それらの才能の能力と活力はたえず増大することになっていた。」（教育 4）

- b. わたしたちの初めの両親は手で造った衣を何も身にまわっていませんでしたが、彼らの純潔の象徴として、何が彼らを取り巻いていましたか（詩篇 104:1, 2）。出エジプト記 34:29 と比較しなさい。

「罪のない彼らふたりは、手で造った衣服を身にまわっていなかった。彼らは、天使が着るような光と栄光の衣をまわっていた。」（人類のあけぼの上巻 20）

「神が人類を最初に聖なるエデンに置かれたとき、彼らが着ていたのは純潔という白い衣であった。彼らは神のみこころに完全に一致した生活を送った。彼らの深い愛情はことごとく天の父にささげられた。美しく柔かい光—神の光が一罪を知らぬアダムとエバを包んだ。この光の衣は、天与の純潔という霊的な着衣の象徴であった。もし彼らがずっと神に真実を尽くしていたら、彼らはいつまでもその光に包まれていたはずであった。」（キリストの実物教訓 290, 291）

2. 愛のテスト

- a. どの意味において、わたしたちの最初の両親は自分たちの聖なる目的を果たすのに自由でしたか (申命記 30:19)。

「われわれの祖先は、罪なく清いものに造られたが、罪を犯す可能性がなかったのではない。神は、彼らを自由意志をもった道徳的行為者として創造された。彼らは、神の品性の知恵と慈悲、また、神の要求の正当性を理解し、完全な自由のもとに、服従か不服従かを決定することができた。……

神は、神の律法を犯す力のないものとして人間を造ることもおできになった。また、アダムの手が禁果にふれないように、彼の手をおさえることもおできになった。しかし、それでは、人間は道徳的自由意志の持ち主ではなくて、単なる機械人形になってしまう。選択の自由がないと、彼の服従は自発的なものではなくて、強制されたものとなる。品性が啓発されることもあり得なかったであろう。」(人類のあけぼの上巻 24)

- b. わたしたちの最初の両親に、どのような忠誠のテストが与えられましたか (創世記 2:16, 17)。

「アダムとエバが美しい園に置かれたとき、彼らの望みうる幸福は何一つ余すところなく与えられていた。しかし神は、彼らを永遠に安全な者とする前に、全能なる配慮から、彼らの忠誠を試みられることになった。かれらは、神の恩恵を受け、神は、彼らと交わられることになっていた。しかし、神は、悪というものを、彼らの手のとどかないところに置かれなかった。サタンは、彼らを誘惑することを許されていた。試練に耐えたら、彼らは神と天使たちから変わらない寵愛をうけることになっていた。」(生き残る人々 35)

- c. わたしたちの最初の両親がどのように神に対して不従順となったのかを述べなさい (コリント第二 11:3; 創世記 3:1-6)。

「サタンは、きよい夫婦に向かって、神の律法を犯すことによって、彼らは、勝利者になれると主張した。今日われわれは、それと同様の議論を聞かないであろうか。自分たちは、広い思想をもち、より大きな自由を享受していると主張する一方、神の律法に従う者は、考え方が狭いと言う者が多くいる。これは『それを食べると』、すなわち、神の要求に逆らうと、『あなたがたは……神のように』なるでしょうというエデンで聞こえた声の反響にすぎないのである。」(人類のあけぼの上巻 41)

3. 罪とその結果

a. 聖書の中で、罪の行為はどのように定義づけられていますか（ヨハネ第一 3:4）。

「罪についての唯一の定義は、神のみ言葉のうちに与えられている定義である。それは『罪は不法である』ということである。すなわち罪は、神の統治の基礎である愛という大法則と戦っている原則が、外にあらわれた結果である。」（各時代の大争闘下巻 228）

b. 彼らの罪のゆえに、どのような悲劇的な結果が人類にもたらされましたか（創世記 3:19, 23; ローマ 5:12）。

罪のない夫婦が、悪を知ることは、神のみこころではなかった。神は、彼らに善を惜しみなく与えて、悪は、さしひかえておられた。それなのに、彼らは神の命令に反して、禁じられた木の実を食べてしまった。こうして彼らは、それを一生の間食べ続け、悪の知識をもつことになるのであった。このとき以来、人類はサタンの誘惑に悩まされることになった。それまで彼らに与えられていた楽しい労働にかわって、不安と労苦を経験しなければならなくなった。彼らは、失望、悲嘆、苦痛をなめ、そして最後には死ななければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 48）

c. すべての人類の性質に、どのような追加的な結果が降りかかりましたか（ローマ 3:12; 7:14, 18; 8:7）。

「アダムとエバは、罪を犯してから……彼らの性質は、罪のために墮落し、悪に抵抗する力が弱まり、サタンが容易に彼らに近づく道を開いたことを……知らされた。彼らは、罪のないときに誘惑に負けた。であるから、今、罪を知った状態においては、忠実に従う力が弱まったのである。」（人類のあけぼの上巻 51）

「善悪を知る木の実を食べた結果は、すべての人間の経験にあらわれている。人の性質には、悪への傾向、すなわち自力だけでは抵抗し得ない一つの力が働いている。」（教育 21）

「自分では、罪を感知することができず、神性を正しく評価することも自分のものとすることもできない。彼の手の届くところにそれが置かれたとしても、その中には彼の性質が願うものが何もないのである。」（レクテッド・メッセージ 1 巻 340）

4. いちじくの葉の衣

- a. 自分たちの無実と、それを象徴していた光を失ったことがわかって、アダムとエバは自分たちの裸を覆おうとして何をしましたか。その覆いは受け入れられるものでしたか（創世記 3:7, 8）。

「罪が侵入したとき〔わたしたちの最初の両親の〕神とのつながりは断たれ、それまで彼らを取り囲んでいた光は消え去った。彼らは裸となった自分の身を恥じて、いちじくの葉をぬい合わせておおいを作り、それを天の衣の代わりにしようとした。（キリストの実物教訓 291）

- b. 墮落以降、どのような霊的な意味において罪人たちは自分のためにいちじくの葉の衣を作ってきましたか（ローマ 10:3）。

「これは、アダムとエバが神にそむいて以来、神の律法の違反者がつねに試みてきたことである。彼らは違反によってあらわれた裸をおおうために、いちじくの葉をぬい合わせて着た。彼らは自分でくふうした衣を着てきた。彼らは自分のわざによって罪をおおい、神に受け入れられようとしてきた。」（同上）

- c. どの欺瞞が、わたしたちは自らを神のみ前に受け入れられるものとすることができると考えさせますか（エレミヤ 17:9; イザヤ 64:6）。

「多くの人々は自分の心の状態について欺かれている。彼らは生来の心がよろずのものより偽るもので、はなはだしく悪に染まっているということを自覚していない。彼らは自らを自分自身の義で巻きつけ、自分自身の人間的な品性の標準に到達して満足している。しかし、彼らが神聖な標準に到達していないとき、彼らはなんと致命的な失敗をしていることであろう。そして自分自身では彼らは神のご要求に応じることができないのである。……

人類家族はみな神の律法を犯した。そして律法の違反者として、人は希望がないほど墮落している。なぜなら、彼は神の敵であり、何の良いこともする力がないからである。『なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである』（ローマ 8:7）。」（セクレッド・メッセージ 1 巻 320, 321）

5. 全世界が神のみ前に罪がある

- a. 全人類は、どのように神の本来のご目的を果たすことに失敗しましたか（ローマ 3:23）。
- b. 義の標準として、神の律法はどの目的を果たしますか（ローマ 3:19, 20; ガラテヤ 3:24）。

「律法は固く立ち、正義は罪人に厳格にその聖なる規則を指し示す。罪人を救うことは律法の管轄ではなく、かえって責めるものであり、許すのではなく罪を自覚させるのである。それは人間の墮落した状態に合わせるために変えることはできない。そうであれば、神の正義が満たされ、このお方の恩寵を得るためにはどうしたらよいか。行いによってではない。『なぜなら、律法を行うことによって、すべての人間は神の前に義とせられないからである』。罪人は自分自身の力では神の要求に応じることはできない。」（サイズ・オブ・タイムズ 1901年7月31日）

- c. 墮落以来、どの質問が罪人からなされてきましたか。また何が唯一の答えですか（ヨブ記 9:2; 25:4-6; ヨハネ 1:29）。

「どの会衆にも、満足していない魂がいる。安息日ごとに彼らは救いの道において自分たちを助け、彼らにどうしたらより良いクリスチャンになれるかを教えてくれる何かを聞くべきである。彼らにとって知るべき重要なことは、どのようにして罪人が神のみ前に義と認められることができるかということである。救いの道が単純に彼らの前に提示されるようにしよう。イエスを罪人の唯一の希望として掲げなさい。」（ビュー・アンド・ヘルド 1909年10月7日）

個人的な復習問題

1. どの目的のために、神は人間を創造されましたか。
2. なぜ神に仕える選択について人類に自由を与えることがそれほど重要なのですか。
3. わたしたちはみな神から離れては、どのように罪深い状態の下にありますか。
4. わたしはどのように自分でいちじくの葉の衣を作る罪を犯すかもしれませんか。
5. だれのうちにのみ、わたしたちは自分の罪深い状態に対して希望を見出すことができますか。

わたしたちを救うための神のご計画

「こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。」(ヘブル 9:22)

「キリストを通して、和解と共に回復が人類のために備えられている。罪によって生じた深淵はカルバリーの十字架によって橋がかけられた。」(セレクトド・メッセージ 1巻 363)

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 53-74

日曜日

10月15日

1. 贖いの計画が明らかにされた

- a. アダムとエバに、神はどの贖いの約束をお与えになりましたか(創世記 3:15; ガラテヤ 3:16)。

「アダムとエバは、大きな罪を犯したにもかかわらず、サタンのなすがままに放任されてはいないという保証が与えられた。神のみ子が、彼らの罪を贖うために、ご自身のいのちを提供されたのである。彼らに恵みの期間が与えられ、悔い改めとキリストを信じる信仰とによって、彼らは、ふたたび、神の子となることができるのであった。」(人類のあけぼの上巻 58, 59)

- b. 贖いの約束にはどの改心の恵みが含まれていますか。なぜそれが必要なのですか(ガラテヤ 3:14; ヨハネ 3:5)。

「人間のうちに、サタンに対する敵意を起こさせるのは、キリストが心の中に植え付けられる恵みである。この改変の恵みと更生の力がなければ、人間は引き続きサタンの捕虜であり、常に彼の命令に従うしもべであるしかない。しかし、心の新しい原則が、これまで平和であったところに争闘を起こすのである。キリストがお与えになる力によって、人間は、暴君であり、横領者であるサタンに抵抗する力を得る。だれでも、罪を愛するかわりに 罪を憎み、これまで心の中を支配していた欲望に抵抗して、それに打ち勝つならば、それは、全く上からの原則が働いていることを示している。」(各時代の争闘下巻 244, 245)

2. 承認される唯一の計画

- a. 贖いの計画において、何が重要不可欠な要素ですか。またそれは何を意味しますか（ヘブル 9:22; レビ記 17:11）。

「キリストは世のはじめからほふられた小羊であられる。多くの人々にとって、なぜ旧約時代にはそれほど多くの犠牲の捧げ物が要求されたのか、なぜそれほど多くの血を流した犠牲が祭壇へと導かれたのかが神秘となってきた。しかし、人々の前に維持されているべきであり、思いと心に刻まれているべき偉大な真理はこれである、『血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない』（ヘブル 9:22）。血を流している犠牲の一つ一つに、『世の罪を取り除く神の小羊』が象徴されていたのである（ヨハネ 1:29）。」（わたしたちの高い召し 47）

- b. カインが神聖な計画を心から受け入れていたのではないことを、何が示していますか（創世記 4:3-5）。

〔カインとアベル〕は、これらの供え物をささげることによって、これらが象徴していた救い主への信仰を表明しなければならず、また、それとともに許しを受けるためには、救い主だけに依存していることを認めなければならないことを知っていた。また、こうして贖罪の計画に調和すれば、神のみこころに服従する証拠を示していることになることも知っていた。血を流すことがなければ、罪の許しはあり得なかった。そして、彼らは、群れの中のういごを犠牲にささげて、約束の贖罪としてのキリストの血への信仰をあらわさなければならなかった。そのほか、地の初穂が、感謝のささげ物として主の前に供えられなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 65, 66）

- c. 神は神聖なご計画についてカインに何をお教えになりましたか。またカインの反応は彼自身について何を明らかにしていましたか（創世記 4:6-8）。

「〔カインは〕自分自身の計画が最高であり、主が自分の条件を受け入れるだろうと考えた。カインは自分の捧げ物において自分がキリストに依存していることを認めなかった。彼は自分の父親アダムがエデンから追い出されたのは、厳しい取り扱いだと思った。罪をいつも自分の思いの前に置き、自分の外にある力に完全に依存していることを告白するものとしてほふられた小羊の血を捧げることは、カインの高慢な精神に対して拷問であった。」（牧師への証 77, 78）

3. 自己義は神のご計画を挫折させる

- a. どのイエスの譬が、義のために自分に頼る過ちを描写していますか（ルカ 18:9-14）。

「パリサイ人は礼拝をするために宮に上るが、それは自分がゆるしを受けなければならぬ罪人であることを認めたからではなく、自分をただししいと思い、神の賞賛を受けようと思うからである。彼は、自分の礼拝を、何か神の前に自分をよく思われるようにする行為でもあるかのように考える。」（キリストの実物教訓 130）

- b. この態度は、どのように神の恵みを挫折させますか。それはなぜですか（ガラテヤ 2:21）。

「パリサイ人と取税人とは、神を礼拝するために来る二種類の人を代表している。そして、その人びとを、この世界に生まれてきた最初の二人の子供たちがよく代表している。カインは、自分を義であると考え、感謝のささげ物をもってただけであった。カインは、罪の告白をしなかった。彼はあわれみの必要も認めなかった。ところが、アベルは、神の小羊を予表した血をもってきた。アベルは、自分が罪人であり、失われた人間であることを認めて神のところにきた。彼の何よりも望んだものは、なんのいさおしもなくして与えられる神の愛であった。神はアベルのささげ物をお受け入れになったが、カインとカインのささげ物は、お認めにならなかった。神に受け入れられる第一の条件は必要感をもつこと、つまり、自分の欠乏と罪とを自覚することである。」（同上 132）

- c. この一般的な態度は、ほとんどすべての誤った宗教において、どのように表わされますか（ローマ 10:2, 3）。

「カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。というのは、ほとんどすべての偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである。人類は贖罪ではなく、文明の発達、すなわち、洗練と向上と更生とが必要であるという人もある。カインが、犠牲の血をぬぎにした供え物によって、神の恵みを得ようとしたように、これらの人々も贖罪を度外視して、神の標準にまで人類を高めようとするのである。カインの生涯は、どのような結末に至るかを示している。また、キリストを離れた人がどうなるかを示している。人類は、自分を再生させる力を持ち合わせない。それは、神に向かって向上するのでなくて、サタンのほうへ墮落する傾向がある。」（人類のあけぼの上巻 68, 69）

4. 計画の神聖な起源

- a. 何が、贖いの計画は人間ではなく、神に起源をもつことを示していますか（ヨハネ第一 4:19）。
- b. 使徒パウロはどのような単純な言葉のうちに、贖いの賜物を描写していますか（エペソ 2:8）。

「主はわたしたちの墮落した状態をご覧になった。このお方はわたしたちが恵みを必要としていることをご覧になり、わたしたちの魂を愛するがゆえに、わたしたちに恵みと平安を賜ったのである。恵みとは受ける価値のない者、失われた者に対する恩寵を意味する。わたしたちが罪人であるという事実が、わたしたちを神の憐れみと愛から締め出す代わりに、わたしたちが救われるためにわたしたちに対してこのお方の愛が働くことを決定的に必要なものとするのである。」（セレクトド・メッセージ 1 巻 347）

- c. 神によってわたしたちの最初の両親に提供された皮の衣は、贖いの約束について何をわたしたちに教えますか（創世記 3:21；イザヤ 61:10）。

「悔い改めた罪深い人間を、愛の腕にいだいてその傷を包み、罪から彼らを清め、救いの衣を彼らに着せることは、神の栄光なのである。」（国と指導者下巻 268）

「いちじくの葉で作った衣やこの世の服装がどれほどよいものであっても、それを着てキリストと天使と共に小羊の婚宴に列席することはできないのである。

キリストご自身で備えてくださった衣だけが、わたしたちを神の臨在の前に立たせてくれるのである。キリストはこのおおい、すなわち主ご自身の義の衣を、悔い改めて信ずる一人一人の魂に着せてくださるのである。」（キリストの実物教訓 291）

「悪を行なって絶望におちいつている魂も、勇気を出さなければならない。多分、神は罪をゆるして、神の前に出ることをゆるしてくださるであろうなどと考えるはならない。すでに神は、第一歩をふみ出されたのである。あなたが神にそむいたときに、神はあなたを求めてさがしに出られたのである。羊飼いのようなやさしい心で神は、九十九匹をあとに残して、さ迷い出た一匹をさがすために荒野へ出ていかれた。彼は、傷ついて、死ぬばかりになっている魂を愛の腕にいだいて、喜び勇んで安全なおりにかかえてこられるのである。」（同上 167）

5. 神の愛の範囲

- a. キリストを通して神によって約束されている和解は、どれほど遠くまで及びますか (ヨハネ 3:16; コリント第二 5:19)。

「偉大な贖いの計画を熟考するときのみ、わたしたちは神のご品性を正しく評価することができる。創造の働きはこのお方の愛の表れであった。しかし、罪深く墮落した人類を救うための神の賜物だけが、神聖な優しさと同情の無限の深さを表している。『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』。神の律法が維持されながら、その正義は擁護され、罪人は許されることができる。天そのものが捧げなければならないもっとも愛しい賜物が注ぎだされてきた。それは『神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされる』ことができるためであった。この賜物によって、人は神の子となるために破滅と墮落から引き上げられる。パウロは次のように言った。『あなたがたは……子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは『アバ、父よ』と呼ぶのである。』(教会への証 5 巻 739)

- b. イエスはひとりびとりの人に対する神の愛と関心をどのように印象的に描写されましたか (マタイ 18:11-14)。

「イエスは、われわれを個人的に知っておられ、われわれの弱さを感じて心を動かされる。イエスはわれわれの名前をみな知っておられる。イエスはわれわれの住んでいる家を、またその家に住んでいるひとりびとりの名前を知っておられる。イエスは、時々、ご自分のしもべたちに、どこそこの町の何という通りのこれこれの家に行ってわたしの羊の一匹をさがしなさいと命じられた。

ひとりびとりは、あたかも救い主がその者のためだけに死なれたかのように、よくイエスに知られている。ひとりびとりの悲嘆はイエスの心を動かす。」(各時代の希望 中巻 278)

個人的な復習問題

- もしわたしたちに贖いの計画の約束がなかったら、どうなるはずですか。
- 贖いの計画は、どのように犠牲の捧げ物において描写されていましたか。
- どのように自己義は贖いの計画を挫折させますか。
- わたしたちをご自分への恩寵へ回復するために、神はどのように最初に前進されますか。
- 神はわたしたち一人びとりをどのように緊密にご存知ですか。

わたしたちの唯一の希望、イエス・キリスト

「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒行伝 4:12)

「キリストのみが、『イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与える』救い主としてあがめられるのである(使徒行伝 5:31)。『この人による以外に救はない』(使徒行伝 4:12)。(キリストの実物教訓 239)

推奨文献： セレクテッド・メッセージ 1巻 226-228

日曜日

10月22日

1. 神聖な身代わり

a. アダムとエバが罪を犯した同じ日に、何がありましたか(創世記 3:21)。

「アダムにとって、最初の犠牲をささげることは、非常に心の痛む儀式であった。彼は、神だけが与えることのできる生命を奪うために、手を振り上げなければならなかった。彼が死を見たのはこれが最初であった。もし彼が神に服従していたならば、人間も獣も死ぬことはなかったことを悟った。彼が罪のない犠牲を殺したとき、自分の罪のために、傷のない神の小羊の血を流さなければならないことを考えて、ふるえおののいた。神の愛するみ子の死によらなければ、償うことのできない自分の罪の大きさを、この光景は、さらに深くなまなましく彼に示した。罪を犯した者を救うために、そのような犠牲をお与えになる無限の恵みに彼は驚いた。暗く恐ろしい未来に希望の星が輝いて、それが、全く絶望的になるのを防いだ。」(人類のあけぼの上巻 61)

b. 預言者イザヤは、この身代わりについてどのように説明していますか(イザヤ 53:4, 5)。

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。」(各時代の希望上巻 11)

2. 永遠の命の条件

a. 永遠の命の条件は何ですか (マタイ 19:16, 17)。

「とこしえの命を受ける条件は、わたしたちの祖先が罪に陥る前すなわちパラダイスにいたときと全く同じであって、それは、神のおきてに完全に服従すること、つまり完全に義であることである。もしとこしえの命がこの条件以下で与えられるものであるとすれば、全宇宙の幸福は危険にさらされ、罪の道が開けてあらゆる災と悲慘とが絶えないことであろう。」(キリストへの道 81)

「キリストは、戒めが要求することを、少しもゆるやかにはなさない。絶対にまちがう余地のないはっきりしたことばで、永遠の命に入るには、戒めに従わなければならないことをお示しになった。これは、墮落前のアダムに要求されたのと同じ条件である。主は、エデンの園で人間に要求なされたのと同じ完全な服従と、しみのない義とを今も求めておられるのである。恵みの契約の下で要求されることは、エデンで要求されたものと同様に広いもので、清く、正しく、善である神の戒めとの調和である。」(キリストの実物教訓 370)

「聖書には、永遠に不変の律法と、仮りの一時的の律法の二つの律法が示されているのと同様に、契約にも二種類ある。恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が墮落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして、家長たちは、救いの希望を与えられたのである。」(人類のあけぼの上巻 439)

b. 人類は完全な服従を、自力で捧げることができますか (イザヤ 64:6)。

「罪に陥る前、アダムは神のおきてに服従することによって、正しい品性をつくり上げることができたが、彼はこれに失敗し、彼の罪のために、わたしたちは生れながら罪あるものとなり、自分の力で義となることはできなくなった。わたしたちは罪深く汚れているので、きよいおきてに完全に従うことができない。神のおきての要求に応じる義を持ちあわせていない。けれどもキリストは、わたしたちのために逃れる道を備えてくださった。キリストは、この地上でわたしたちが会わねばならない試練と誘惑のまっただ中で生活し、罪なき生涯をお送りになった。そして、わたしたちのために死に、今やわたしたちの罪を取り除いて、おのれの義を与えようとしておいでになる。」(キリストへの道 81, 82)

3. キリストを通しての完全な服従

- a. キリストの功績を通して、わたしたちにはどの保証がありますか(ヨハネ 15:5; ピリピ 4:13)。

「世の贖い主、神のひとり子、このお方の律法に対する完全な服従によって、またこのお方の命と品性によって、墮落によって失われていた者が贖われ、そして人類はアダムの犯した義の聖なる律法に服従することができるようになった。キリストはご自分の神性を人性に取り替えられたのではなかった。そうではなく、人性を神性と結合されたのである。そして人性において、このお方は人類家族のために、律法に生きられた。キリストを受け入れるすべての人の罪は、このお方のものとして勘定される。そしてこのお方は、神の義を完全に満足させられたのであった。」(教育に関する特別な証 21)

「墮落した人類は、自分の人間の力ではサタンに打ち勝つことができないので、キリストがご自分の人間と神の結合された力をもって人類を助けるために天の王宮からやって来られた。キリストはエデンにおけるアダムの、彼のすぐれた優位性をもってサタンの誘惑に抵抗し、彼を打破することができたはずであったことをご存知であった。このお方はまた、墮落以降、エデンの外で神の光と愛から離れては、人間が自分自身の力でサタンの誘惑に抵抗することは不可能であることもご存知であった。人類に希望を取り戻すために、そして完全な墮落から彼らを救うために、このお方はへりくだって人性を取られた。それは人間の力と結合されたご自分の神の力をもって、ご自分が人間のいるところに到達できるためであった。このお方は墮落したアダムのむすこ娘たちのために、人間が自分自身で自分たちのために得ることはできない力を獲得された。それは、このお方のみ名によって、彼らがサタンの誘惑に打ち勝つことができるためである。」(ビュー・アット・ワールド 1874年8月18日)

- b. ダニエルにより、キリストの義に関して何が預言されましたか(ダニエル 9:24)。

「ダニエルの預言の中で、キリストについては、このお方が『不義をあがない、永遠の義をもたらし』と記録されている(ダニエル 9:24)。すべての魂は、次のように言うことができる。『このお方は、ご自分の完全な服従によって、律法の要求を満たして下さいました。そしてわたしの唯一の希望は、わたしたちのために律法に完全に従って下さったこのお方を自分の身代わり、また保証として眺めることにある。このお方の功績を信じる信仰によって、わたしは律法の有罪宣告から解放されている。このお方はわたしにご自分の義を着せて下さる。それは律法のすべての要求に答えるものである。わたしは永遠の義をもたらすお方のうちにあつて完全である。』」(エレキッド・メッセージ 1巻 396)

4. 傷のない小羊

- a. バプテスマのヨハネは、どのような象徴をもって、キリストを人々に紹介しましたか(ヨハネ 1:29)。

「イエスが嘆願者としてひざまずき、涙ながらに天父の是認を懇願しておられるのを見て、ヨハネは深く感動した。神の栄光がイエスをとりかこみ、天からの声がきこえた時、ヨハネは神が約束しておられたしるしをみとめた。自分がバプテスマをさずけたおかたが世のあがないの主であることを彼は知った。聖霊がヨハネの上にくだった。彼は手をさしのべてイエスを指さし、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と叫んだ(ヨハネ 1:29)。」(各時代の希望上巻 117)

- b. ペテロはイエス・キリストについて何とっていますか(ペテロ第一 1:18, 19)。

「『キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており』(コロサイ 2:9)。人は、神格が苦難を受けられて、カルバリー之苦悩の下に沈まれたことを理解する必要がある。しかしなお、神が世の贖い代としてお与えになったイエス・キリストは、教会をご自身の血によって買い取られた。天の大権は、地上でもっとも啓発された民だと主張していた宗教的な狂信者たちの手で、苦しめられたのであった。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ワット・コメント] 7 巻 907)

「罪人たちが、カルバリー上で死んでいかれる救い主を見上げるとき、そして苦しんでおられるお方が神であられることを悟るとき、彼はなぜこの大きな犠牲が払われるのかを尋ねるようになる。そして、十字架は、犯された神の聖なる律法を指し示すのである。キリストの死は、律法の不変性と義の反駁の余地のない論拠である。キリストについて預言し、イザヤは「主はおのれの義のために、その律法を大いなるものとし、かつ光荣あるものとする」と言っている(イザヤ 42:21 英訳)。律法には悪を行う者を許す力はない。その働きは、彼の欠点を指摘することである。こうして彼が自分は救うのに力強いお方を必要としていること、また自分の身代わり、自分の保証、自分の義となつて下さるお方を必要としていることを悟るためである。イエスは罪人の必要に答えてくださる。なぜなら、このお方はご自分に不法者の罪を引き受けて下さったからである。「しかし彼はわれわれののがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」(イザヤ 53:5)。主は罪人を切り捨て、彼を完全に滅ぼすことがおできにならなかった。かえって、より代価の高い計画が選択されたのである。このお方の大いなる愛のうちに、このお方は、世の罪を負うためにご自分のひとり子を与え、希望のない者に希望を与えて下さったのである。」(パイブル・エコー 1893 年 3 月 15 日)

5. 神聖な挑戦

- a. キリストはご自分の敵たちに、どのような反駁できない問いをなさいましたか (ヨハネ 8:46)。

「地上におけるご自分の生涯において、キリストは完全な品性を発達させられた。このお方はご自分のみ父の戒めに対する完全な服従をお捧げになった。人のかたちを取って地上に来られることにおいて、律法の支配下に入られることにおいて、またこのお方が人間に、ご自分が彼らの病と彼らの悲しみと彼らの有罪を負われたことを明らかにされたことにおいて、このお方は罪人にはならなかった。パリサイ人たちの前で、このお方は次のように仰せになることができた。『あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか』(ヨハネ 8:46)。罪のしみは一つもこのお方になかった。このお方は世の前に、しみのない神の小羊であられた。」(ユース・インストラクター-1898年12月29日)

- b. わたしたちはどのようにして救われることができますか (ヨハネ 3:16-18)。

「では、われわれはどのようにして救われるのだろうか。『ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように』人の子イエスもまたあげられた (ヨハネ 3:14)。蛇にだまされ、かまれた者はみなこのイエスを仰ぎ見て生きることができる。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ 1:29)。十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとにひきよせている。このひきよせる力にさからわなければ、われわれは救い主を十字架につけた罪を悔いて十字架の下にみちびかれる。その時神のみたまは、信仰を通して魂に新しいいのちを生じさせる。考えること望むことはキリストのみこころに服従させられる。心と思いは、『万物をご自身に従わせ』るためにわれわれのうちに働かれるキリストのみかたちに新しくつくられる (ピリピ 3:21)。その時神の律法は心と思いにしるされ、われわれはキリストとともに、『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます』とすることができる (詩篇 40:8)。」(各時代の希望上巻 207, 208)

個人的な復習問題

1. イザヤ 53:4, 5 を説明しなさい。
2. 聖書はどのように人間の義を明確にしていますか。
3. わたしたちはどのようにして、神の律法に完全な服従を捧げることができますか。
4. カルバリー上でのキリストの死は何を証明していますか。
5. キリストはご自分の敵に対して何をつきつけられましたか。

第一安息日献金 伝道地のための文書

21 世紀に、インターネット、e-ブック、また他のメディアが、福音を伝える近代的な方法である一方では、なお独自に他の種類のメディアがとってかわることのできない融通のきく提示の方法があります。印刷された文書というのは、地の果て—電気のないところ—にまで福音が届く効果的な方法の一つです。この手段によって、良き知らせは旧共産圏、無神論やイスラム国家にまで入っており、一対一ペースで分かち合うことができます。



主のしもべは次のように言っています、「聖書の真理を含んだ出版物が秋の木の葉のようにまき散らされるようにしなさい」(天国で 323)。「わたしたちの出版物は至る所へ行くべきである。それらが多くの言語で発行されるようにしなさい。第三天使のメッセージは、この方法や生ける教師を通して伝えられなければならない。この時代のための真理を信じるあなたは目覚めなさい。真理を理解する人々を助けてそれを宣布できるようにするために、可能な限りあらゆる手段を用いることが、今あなたの義務である」(教会への証 9 巻 62)。

「告げ示し(出版し)、ほめたたえて言え、『主はその民イスラエルの残りの者を救われた』と」(エレミヤ 31:7)。神の民、イスラエルの残りの者は、救いの良き知らせを出版すべきです。わたしたちには多くの国々で、福音伝道のための聖書や書籍またパンフレットがありますが、まだ世界中には、同じ特権をもっていない多大な群衆がいます。世界中の様々な地域への文書配布を支援することは、わたしたちの義務であり榮譽です。聖書は多くの言語や方言に翻訳されてきましたが、まだキリストへの道、各時代の争闘など重要な書物を手に入れられない人々は何百万といます。もし今日現代の真理を探している人々と安息日聖書教科を分かち合うとしたら、どうでしょう。

まだ改革のメッセージが入っていない太平洋の島々やアフリカ諸国を考えてみてください。伝道の手 11:1 には、「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである」とあることを覚えていきましょう。わたしたちは遅すぎる前に神のみ言葉を広めなければなりません。わたしたちはすぐに結果は見えないかもしれませんが、しかし、後の雨が満ちみちてもたらされるときの大収穫を目撃できるのはそれほど遠い先のことではありません。わたしたちは地ではなく、天に宝を蓄える賢明な管理者となりましょう。

すでに貢献してこられた世界中の兄弟、姉妹、友人がたに非常に感謝しています。しかしかつてなかったほど必要は大きくなっています。ですから、この働きに惜しみない献金をしようではありませんか!

世界総会出版支部

信仰による義認

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。」(ローマ 5:1)

「神からわたしに与えられた光は、この重要な〔救いという〕主題を、わたしの思いの中で他のどの問題よりも上におく。義認はまったく恵みによるもので、墮落した人間ができるいかなる行いによっても買うものではない。」(信仰と行い 20)

推奨文献： セレテッド・メッセージ 1巻 389-398

日曜日

10月29日

1. 義認の条件

a. 罪人はどの条件によってのみ、義と認められることができますか(使徒行伝 16:31; ガラテヤ 3:11)。

「神が罪人を許し、彼にふさわしい刑罰を免じ、彼をあたかも罪を犯さなかったかのように扱われるとき、このお方は彼を神聖な恩寵へと受け入れ、キリストの義という功績を通して、彼を義とお認めになる。罪人は罪深い世の罪のために犠牲となられた神のいとし子を通してなされた贖罪を信じる信仰を通してのみ、義と認められることができる。だれも自分自身のどんな行いによっても義と認められることはできない。彼はただキリストの苦難、死、そして復活の徳によってのみ、罪の行為から、律法の有罪宣告から、不法の刑罰から救出され得るのである。」(セレテッド・メッセージ 1巻 389)

b. 信仰こそ、神が罪人を許し、義と認められる条件です。それはどのように働きますか(マタイ 15:22-28; マルコ 9:20-24)。

「信仰は神が罪人に許しを約束するのにふさわしいと思われた条件である。それは信仰に救いに価する何らかの徳があるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた救済策をつかむことができるからである。信仰は罪人の不法と欠点の代わりに、キリストの完全な従順を提示することができる。」(セレテッド・メッセージ 1巻 366, 367)

2. 義認の実例—アブラハム

- a. 義はどのようにアブラハムに着せられましたか。行いは義認を得るのにどのような功績がありますか(創世記 15:1, 5, 6)

「この主題をはっきりと明白にしよう。すなわち、被造物の功績を通して、神のみ前におけるわたしたちの立場やわたしたちへの神の賜物においてなんらかの影響を及ぼすことは不可能だということである。信仰と行いがだれかのために救いという賜物を買うならば、そのとき創造主は被造物に対する義務の下におられることになる。ここに偽りが真理として受け入れられる機会がある。もしだれかが自分のなすことのできる何かによって救いに価することができるとすれば、彼は自分の罪のために自己処罰を行うカトリックと同じ立場にいることになる。救いはそのとき、部分的な負債であって、報いとして稼ぐことができることになる。もし、人が自分のいかなる良い行いによっても救いに価することができないとすれば、そのときそれは完全に恵みによるものであり、人は罪人として、イエスを受け入れ信じるがゆえにそれを受けなければならない。それは完全に無償の賜物である。信仰による義認は議論を超越している。そして墮落した人間の良い行いにおける功績は決してその人のために永遠の命を手に入れることはできないという問題が決着すればただちに、このすべての議論は終わるのである。神からわたしに与えられた光は、この重要な主題を、わたしの思いの中で他のどの問題よりも上におく。義認はまったく恵みによるもので、墮落した人間ができるいかなる行いによっても買うものではない。」(信仰と行い 19, 20)

- b. アブラハムの経験に基づいて、どのように義は罪人に着せられますか(ローマ 4:1-8)

「義は律法への従順である。律法は義を要求する。そしてこれを罪人は律法に対して負っているが、それを返すことができない。彼が義を得ることのできる唯一の方法は、信仰を通してである。信仰によって、彼はキリストの義を神の許へたずさえることができる。そして主はご自分の御子の従順を罪人の勘定に置かれるのである。キリストの義は人間の失敗の代わりに受け入れられる。そして、神は悔い改めた信じる魂を受け入れ、許し、義と認め、彼をあたかも義なる者であるかのように扱い、ご自分の御子を愛されるように彼を愛されるのである。これがいかに信仰が義と認められるかである。そして許された魂は恵みから恵みへ、光からさらに大いなる光へと進む。彼は喜んで、『わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである』とすることができる(テトス 3:5-7)。』(セクレット・メッセジ 1巻 367)

3. 長血をわずらっていた女

- a. 主がヤイロの家に向かっているとき、道中で何が起こりましたか（マルコ 5:22-27）。

「偉大な医者」が通りすぎようとされると、「長血をわずらっていたあわれな女」は前へのり出して、イエスの衣のへりにかすかにさわることができた。それでもその瞬間、彼女は、自分がいやされたことがわかった。一度だけさわること、彼女の一生の信仰が集中されていた。するとたちまち、彼女の痛みと弱さは完全な健康の力にかわった。……

救い主は不注意な群衆が偶然さわったのと、信仰をもってさわったのとを区別することがおできになった。このような信頼を、何にも言わないで、みすぐすわけにできなかった。イエスは、このいやしい女によるこびの泉となるような慰めのことば—イエスに従う者にとって世の終りまで祝福となるようなことばを語りたいとお思いになった。……

いやしの力をただイエスの衣にさわる行為だけに求める迷信の余地を、イエスはお与えにならなかった。いやしが行われたのは、イエスとの外面的な接触によってではなく、イエスの天来の力にすぎる信仰によってであった。」（各時代の希望中巻 72, 73）

- b. 何が、群衆の中にいた普通の人々が偶然さわったのと、病気の女がこのお方の衣にさわったことに違いを生じさせたのですか（マルコ 5:28-34）

「イエスの周りにひしめき合っていた驚いている群衆は、接触しても何の命の力を得たとも感じなかった。しかし、この哀れな苦しむ女、すなわち 12 年病人であった者が自分の最大の必要の中でその手を伸ばし、このお方の衣のすそにふれたとき、彼女はいやしの力を感じた。彼女のそれは信仰の接触であり、キリストはその接触を認められた。このお方はご自分から力が出て行ったことをご存じであった。……わたしたちにキリストとの生きたつながりを得させる信仰は、わたしたちの側で、最上の優先、完全な信頼、全的献身を表現する。この信仰は愛によって働き、魂を清める。それはキリストに従う者の生活の中に神の戒めへの真の従順を成し遂げる。なぜなら、神への愛と人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」（セレクテッド・メッセージ 1 巻 334）

4. 中風患者のいやし

- a. 主のご命令に対して、この中風患者はどのような反応をしましたか。わたしたちは彼の例から何を学ぶことができますか (ヨハネ 5:1-9)。

「イエスが病人をおいやしになったという簡単な聖書の記録から、わたしたちは罪のゆるしをえるためには、どのようにしてこのお方を信じればよいかを幾分知ることができる。ベテスダの中風患者のことを考えてみよう。哀れな病人は、38年もからだの自由を失っていたのである。しかしイエスは、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』と言われた。この病人は、『主よ、もしわたしをいやしてくださるならばみ言葉に従います』とも言えたであろう。しかしかれは、キリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと信じてすぐに立って歩こうとした。歩こうとしたときに実際に歩くことができたのである。かれはキリストのみ言葉に頼って行動したので、神は彼に力を与え、彼はすっかりいやされたのである。」(キリストへの道 64)

- b. 健康へと回復された中風患者のどの模範にわたしたちは従うべきですか (マルコ 11:24)。

「同様に、あなたも罪人である。あなたは自分の過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身を聖なる者にすることもできない。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださるとお約束なさった。あなたはのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげて、神に仕えることを決意するのである。これを実行しさえすれば必ず神はのみ約束を果してくださる。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださる。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのである。信ずるごとくになるのである。

いやされたと感じるまで待つてはならない。そして『信じます。そのとおりです。私がそう感じるからではなく、神がこれを約束されたからです』と言いなさい。
.....

「[マルコ 11:24 引用]。のみ約束には条件が一つある。それは神のみ旨に従って祈るということである。しかし、わたしたちの罪をきよめ、神の子らとしてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころである。であるから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのである。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずることも良心の呵責もなく律法の前に立つことができるのはわたしたちの特権である。聖書にも『こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない……これは……肉によらず霊によって歩く』(ロマ 8:1, 4) とある。」(同上 65, 66)

5. 信仰を働かせる

- a. 信仰を受けるために、わたしたちはどこを見なければなりませんか。何のために、それは与えられるのですか（ヘブル 12:2; ヨハネ 6:29）。

「罪人は、自分自身を救うことはできないが、救いを得るためには、彼のなすべきことがある。『わたしに来る者を決して拒みはしない』とキリストは言われる（ヨハネ 6:37）。われわれは、彼のところに来なければならない。そして、罪を悔い改めるときに、キリストはわれわれを受け入れ、ゆるしてくださることを信じなければならない。信仰は、神の賜物である。しかし、信仰を働かせる力は、われわれに与えられている。信仰は神の恵みとあわれみの招待を、魂が把握する手である。」（人類のあけぼの下巻 34, 35）

- b. パウロはどのように信仰を説明していますか。証の書にはさらにどのような説明がありますか（ヘブル 11:1-3）。

「信仰はわたしたちの救いの基盤ではないが、大きな祝福一見するための目、聞くための耳、走るための足、つかむための手一である。それは手段であって、目的ではない。もしキリストが罪人を救うためにご自分の命を下さったのであれば、わたしはなぜその祝福を受けとらないで良いであろうか。わたしの信仰はそれをつかむ。こうして、わたしの信仰は望んでいる事柄の実体となり、まだ見ていない事実の証拠となる。こうして安んじ、信じて、わたしは主イエス・キリストを通して、神との平和を得る。」（パウル・コメンタリ [E. G. ホイトマン] 6 巻 1073）

個人的な復習問題

1. 義と認められるためには、何が必要ですか。
2. 義認が行いによって得られるものではないことを、どのように示すことができますか。
3. イエスに押し寄せていた人々の間にいた女の経験から、どのような教訓を学ぶことができますか。
4. 何が病人の男に祝福を受けさせ、またわたしたちにも祝福を受けさせることができますか。
5. わたしたちはどのように信仰を受け、そこから恩恵をこうむることができますか。

義認する信仰

「わたしたちの父祖アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。あなたが知っているとおりに、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ、こうして、『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』という聖書の言葉が成就し、そして、彼は『神の友』と唱えられたのである。」(ヤコブ 2:21-23)

「義認する信仰はいつも悔い改めを産み、それから信仰の実である良いわざを結ぶ。」(わたしたちの高い召し 52)

推奨文献： セレクトド・メッセージ 1巻 377-382

日曜日

11月5日

1. 危険な考えが露呈する

- a. 信仰と行いの提示におけるどのような調和の取れていない見解を、主の僕は正そうとしましたか。

「わたしは集会に出席していた。そして多くの信徒たちが出席していた。わたしの夢の中で、あなたは信仰と信仰によって着せられるキリストの義の主題を提示していた。あなたは数回、行いは何にもならない、そこに条件はないと繰り返していた。その問題は、人々の思いが確かに混乱させられ、信仰と行いについて正しい印象を受けないとわかるような光のうちに提示された。そこでわたしはあなたに手紙を書くことを決めた。あなたはこの問題をあまりにも強く述べている。わたしたちが義認と聖化、そしてキリストの義を受けるのには条件がある。わたしはあなたが何を言いたいかわかるが、あなたは多くの人々の思いに誤った印象を残している。良い行いは一人の魂でさえ救わないが、なお一人として良い行いなしに救われることもない。」(セレクトド・メッセージ 1巻 377)

- b. 永遠の命の条件に関して、聖書からどのような光を受けることができますか(マタイ 19:16, 17, 20, 21)。

2. うわべだけの信仰の不十分さ

- a. パウロは神に従うと公言する人々のうわべだけの信仰が不十分であることを、どのように説明していますか（ローマ 10:2, 3）。彼らはどのような種類の信仰が必要ですか（ローマ 10:10）。

「救いに至る信仰は、うわべだけの信仰ではない。それは単に知性の同意ではない。それは心の中に根ざした信念であり、キリストを個人的な救い主として心に受け入れ、このお方がご自分によって神に来るすべてのものを最高にまで救うことができなることを確信していることである。このお方は他の人々を救われるが、あなたは救ってくださらないと信じることは、本物の信仰ではない。」（セクレット・メッセージ 1 巻 391）

「着せられるキリストの義は、義認する信仰を通してもたらされる。そして、これこそパウロがあればほど熱心に主張している義認なのである。」（同上 397）

- b. わたしたちがうわべだけの信仰しか持っていないか、あるいは義認する信仰を持っているかは、何が示しますか（ヤコブ 2:18）。

「しかし、〔信徒〕がキリストの功績のゆえに義と認められるからといって、彼は自由に不義を働くべきではない。信仰は愛によって働き、魂を清める。信仰はつぼみをつけ、花を咲かせ、尊い実の収穫を实らせる。信仰のあるところには、良い行いが現われる。病人は訪問され、貧しい人は顧みられ、孤児ややもめはなおざりにされず、裸の者は着せられ、困窮している者は養われる。キリストは良い行いをしながら巡回された。そして人々がこのお方と一致するとき、彼らは神の子らを愛し、柔和と真理が彼らの足を案内する。顔の表情が彼らの経験を表わし、人々は彼らがイエスと共にいて、このお方から学んだ者であることを知る。」（同上 398）

「律法的でうわべだけの信仰を持っている人々が多くいる。彼らは名目的にはキリストを世の救い主として受け入れたが、自分たちの心のうちに、このお方が彼らの個人的な救い主であられること、彼らの罪を許してくださったこと、彼らがあらゆる光の源であられる神との生きたつながりを持っていることの証拠がない。あなたは、自分自身の心がこのお方の愛で満たされない限り、イエスとその義を他の人々に教えることも、このお方の比類のない愛を描写することも、このお方の満ちみちた恵みも、クリスチャンのすべてのすべてであり、人の慰め主であり導き手としてのこのお方を描くこともできない。あなたは『わたしは主がいつくしみ深いことを味わい知りました』と言えるまでは、憐れみと愛の神として、このお方を提示することはできない。」（サイン・オブ・タイムズ 1889 年 9 月 2 日）

3. 義認する信仰

- a. いつ罪人は信仰によって義とされますか。魂はどの条件の下に保たれるべきですか (使徒行伝 16:30, 31)。

「あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心した。であるから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えてくださるようお願いなさい。」(キリストへの道 63)

「神の御前に深く悔いた罪人が、自分のためのキリストの贖罪を認め、この贖罪を今の生活とこれからの生活の唯一の希望として受け入れるとき、彼の罪は許される。これが信仰による義認である。すべての信じる魂は、自分の意志を全く神のみ旨に順応させ、贖い主の贖罪の功績を信じる信仰を働かせ、力から力へ、栄光から栄光へと前進することによって、悔い改めと悔悟の状態を保たなければならない。」(パイプ・コメンタリ [E. G. 初作コメン] 6 卷 1070)

- b. 使徒パウロは、義認を可能とする信仰をどのように描写しましたか (ガラテヤ 5:6)。

「人を救う信仰は、キリストを受け入れる者が神との契約関係にはいる一つの取り引きである。真の信仰はいのちである。生きた信仰とは、活力と信頼心とが増し加わり、それによって魂が勝利する力となることを意味する。」(各時代の希望中巻 75)

- c. この信仰はそれを持つ者に何をなしますか (マタイ 21:21)。

「魂がキリストを救いの唯一の希望としてつかむとき、そのとき本物の信仰が表される。この信仰はそれを持つ人を、魂のすべての愛情をキリストにおくように導く。彼の理解力は聖霊の支配下にあり、彼の品性は神聖なみかたちに従ってかたちづくられる。彼の信仰は死んだ信仰ではなく、愛によって働く信仰であり、キリストのうるわしさを眺めて、神聖なご品性に同化するように彼を導く。」(セレクトド・メッセージ 1 卷 391, 392)

4. 義認する信仰の実例

- a. アブラハムは、うわべだけの信仰ではなく、義認する信仰をもっていたことを、何が証明しますか（ヤコブ 2:21-23）。

「使徒ヤコブは、信仰による義認の主題を提示する際の危険を見た。そして彼は本物の信仰はそれに見合った行いなしに存在することはできないことを示すために労した。アブラハムの経験が提示されている。『信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ』と彼は述べている。こうして本物の信仰は、信徒のうちに本物の行いをなす。信仰と従順は、しっかりした価値のある経験をもたらす。

救う信仰ではない心情がある。み言葉は悪霊どもが信じておののいていると宣言している。愛によって働かず、魂を清めないいわゆる信仰は、だれをも義と認めない。……アブラハムは神を信じた。わたしたちはどのようにして彼が信じたことがわかるだろうか。彼の行いは彼の信仰の性質を証した。そして彼の信仰は彼にとって義と認められた。」（パイール・コメント [E. G. ホイトコメント] 7巻 936）

- b. イエスはしばしば、信仰によって義とされたことを生活に表している人々にさえ、どのような明白な教えを繰り返されましたか（ヨハネ 5:14）。

「わたしたちにキリストとの生きたつながりを得させる信仰は、わたしたちの側で、最上の優先、完全な信頼、全的献身を表現する。この信仰は愛によって働き、魂を清める。それはキリストに従う者の生活の中に神の戒めへの真の従順を成し遂げる。なぜなら、神への愛と人への愛が、キリストとの生きたつながりの結果だからである。」（セレクトド・メッセージ 1巻 334）

「神が心のうちに働いてくださり、人が自分の意志を神に明け渡して、神に協力するとき、神が聖霊によって内に働いて下さることを、彼は生活において外に働く。そしてそこには心の目的と生活の実践の間に調和がある。すべての罪は、命と栄光の主を十字架につけた憎むべきものとして捨てられなければならない。そして信徒は、絶えずキリストのわざをなすことによって、進歩的な経験を得なければならない。義認の祝福が維持されるのは、継続的な意志の明け渡しと継続的な従順によってである。」（同上 397）

5. 真の信仰の例示

- a. 真の真珠を得るために商人は、何を犠牲にする用意がありましたか。真の真珠によって何が表されていますか (マタイ 13:45, 46)。

「キリストの義は、純粋な白真珠のように、しみも傷もない。どんな人間の技術をもってしても、この偉大で尊い神の賜物をそれ以上にすぐれたものにはできない。それには、一つとしてきずがない。キリストの中には『知恵と知識との宝が、いっさい隠されている』(コロサイ 2:3)。」(キリストの実物教訓 92)

- b. なぜ多くの人びとはこの大なる真珠、すなわちキリストの義を見出さないのですか (黙示録 3:17)。

「ある人びとは、つねに、天の真珠を求めているように見えるけれども、彼らは、自分たちの悪習慣を全く放棄していない。彼らは、キリストが彼らの中に生きてくださるために自己に死ぬことをしない。彼らが高価な真珠を見いだすことができないのはそのためである。彼らは、まだ、汚れた野心や世の快樂を愛する心に勝利していない。彼らは、キリストにならって十字架をとって、克己と犠牲の道を歩かない。九分通りクリスチャンではあるが、完全なクリスチャンになっていない。天国に近いようではあるが、天国にはいることはできない。完全ではなくて、九分通り救われていることは、九分通り失われていることではなくて、完全に失われていることである。」(キリストの実物教訓 95)

個人的な復習問題

1. わたしたちは自分の行いによって救われることはありませんが、信仰によって義と認められた人の生活には何が見られるようになりますか。
2. 何が真の信仰と名目的信仰の相違を表しますか。
3. 本物の信仰は、それを持つ人に何をなしますか。
4. 信仰と行いの間にはどのような重要な関係が存在しますか。
5. クリスチャンだと思われる人々にとって、大きな危険は何ですか。

悔い改めへの招き

「イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである。」(使徒行伝 5:31)

「招きと義認は一つではなく、同じことではない。招きとは罪人をキリストに引き寄せることであり、聖霊によって心になされる働きであり、罪を自覚させ、悔い改めへと招くことである。」(セレクトド・メッセージ 1巻 390)

推奨文献： サインズ・オブ・タイムズ 1895年2月14日、
1913年2月14日

日曜日

11月12日

1. 罪に対する神のみこころに添うた悲しみ
 - a. わたしたちの罪が神に許されるために、わたしたちは何をどのように招かれていますか(使徒行伝 3:19)。
 - b. 真の悔い改めにはいつも何が伴いますか。またそれは心と生活にどのように影響を及ぼしますか(コリント第二 7:9, 10)。

「悔い改めとは罪を悲しむことと罪を離れることを含む。人は罪の恐ろしさを知るまでは罪を捨てるものではない。心の中で全く罪から離れなければ、生活にほんとうの変化は起らないのである。」(キリストへの道 22, 23)

「われわれは、自分の悪い行為によって面白くない結果が自分自身にふりかかるために悲しむことがよくある。しかしこれは悔い改めではない。罪についてほんとうに悲しむことは、聖霊の働きの結果である。みたまは、救い主を軽んじ悲しませた心の忘恩を示し、われわれをくだけた心をもって十字架のもとに行かせる。われわれが罪を犯すたびに、イエスは新たな傷を受けられる。自分が刺したイエスを仰ぎ見るとき、われわれは、イエスに苦悩を与えた罪について悲しむ。このように悲しむことによって、われわれは、罪を放棄するようになるのである。」(各時代の希望 中巻 4, 5)

2. 悔い改めという賜物

- a. ダビデの祈りは、どのように真の悔い改めの性質を描写していますか（詩篇 51:1-4, 10-13）。

「ダビデは自分の罪の恐ろしさ魂の汚れを認めて、自分の罪を憎んだのである。かれが祈ったのは、罪のゆるしばかりでなく心がよめられることであった。また聖潔の喜びを切望し、もう一度神とやわらぎ神との交わりにはいたいと願ったのである。」（キリストへの道 25）

- b. 真の悔い改めの源について、聖書は何を教えてください（ローマ 2:4）。

「わたしたちはキリストなくしてはゆるしが与えられないのと同じように、キリストの霊が良心をよびさまさなければ悔い改めることができないのである。

キリストはすべての正しい動機の根源であって、かれのみが人の心のうちに罪を憎む心を植えられることができるのである。真理や純潔をしたい、自分の罪深さを認めることなどはみな、キリストの霊がわたしたちの心に働いている証拠である。」（同上 28, 29）

- c. わたしたちはどのようにして、このような種類の悔い改めを得ることができますか（マタイ 11:28; 使徒行伝 5:31）。

「生ける託宣は罪人がキリストの招きに耳を傾ける前に悔い改めなければならないとは教えていない。『すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう』。人はこのお方を自分の救い主、自分の唯一の助け主として見るがゆえに、悔い改めができるためにキリストの許へ来なければならない。なぜなら、もし彼らがキリストの許へ来ることなしに悔い改めることができるなら、彼らはまたキリストなしに救われることができるからである。本物の悔い改めへと導くのはキリストから出る徳である。……悔い改めは許しとまったく同様にキリストの賜物である。それはイエスが働いておられない心の中には見出すことができない。わたしたちはキリストなしに許されることができないのと同じように、キリストの御霊がなければ、悔い改めて良心が目覚めさせられることはできない。罪人は十字架上でのご自分の愛を表されることによって、罪人を引き寄せられる。そしてこれが心をやわらげ、魂のうちに悔悟と悔い改めを吹き込むのである。」（ピュー・アンド・ハルト 1890年4月1日）

3. 許しのための条件

- a. 神のみ言葉の中に定められている許しを得る条件は何ですか（箴言 28:13; ヤコブ 5:16）。

「神のあわれみをうける条件は簡単で、しかも正しく合理的である。神は、わたしたちの罪がゆるされるには、なにか面倒なことをしなければならないとは要求なさらない。長途の巡礼の旅に上ったり、痛々しい苦行をしたりして、天の神に自分がよく思われようと思ったり、罪の償いをしようとしなくてもよいのである。ただ罪を言い表わして、これを離れる者はあわれみをうけるのである。」（キリストへの道 45）

- b. わたしたちが自分の兄弟に対して罪を犯したとき、だれに対しても罪を犯したのですか。自分の兄弟に対するわたしたちの義務を、何が教えるべきですか（マタイ 25:40; ペテロ第一 4:8）。

「自分の罪を神に告白しなさい。このお方だけがそれらを許すことがおできになるのである。そして、自分のあやまちを互いに言い表わすのである。もし友人や隣人をつまずかせたならば、自分は悪かったとこれを認めてあやまるのである。そして、これをこころよくゆるすのはその人の義務である。それから神のゆるしを求めなさい。というのはあなたがぎずつけた兄弟は神のものであるから、かれをぎずつけたことは、かれの創造主、またあがない主に罪を犯したことになるからである。」（同上 45, 46）

- c. だれに罪を告白しなければなりませんか。罪の告白はどのようになされなければなりませんか（詩篇 32:5; マタイ 5:23, 24）。

「真の告白はつねに、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表わすのである。神にだけ告白すべきものもあろう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもあろう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともあろう。いずれにせよ、告白はすべてはっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばならない。」（同上 47, 48）

「個人的な性質の罪はキリスト、すなわち神と人との間の唯一の仲保者に告白しなければならない。なぜなら、『もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる』からである（ヨハネ第一 2:1）。すべての罪は神に対する侮辱であり、キリストを通して神に告白しなければならない。すべての公の罪は公に告白すべきである。」（福音宣伝者 216）

4. 自己義認の危険

- a. 主がアダムとエバに彼らの罪に関してお尋ねになったとき、彼らの反応はどのようにそれが本当には自分たちの過ちではないということを示唆していましたか（創世記 3:12, 13）。

「アダムとエバは、禁断の木の実を食べた後、言うに言われぬ恐れを強く感じた。最初は、どうして自分たちの罪の言いわけをして、恐ろしい死の宣告をのがれようかと考えた。神がかれらの罪をただされた時、アダムはその罪をなかば神に、なかば自分の同伴者に負わせて『わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです』と答え、女はその責めをへびに負わせて『へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました』（創世記 3:12, 13）と言った。どうしてあなたはへびをお造りになったのですか、どうしてへびをエデンの園にお入れになったのですかという質問がこの罪の言いわけのうちに含まれているのであって、かれらの墮落の責任は神にあると言っているのである。」（キリストへの道 50）

- b. 人が不義のうちにいるのを見出されたとき、何がよくある誘惑ですか。またなぜこの態度が無効な告白を捧げさせるのですか（ヨブ記 9:20; ルカ 16:15）。

「おのれを義とする精神は、いつわりの父である悪魔よりきたもので、アダムのむすこ、娘はみなこの精神を表わした。こうした告白は聖霊に動かされたものではないから、神に受け入れられることはできない。真の悔い改めは、自分の罪を自分で負い、なんの虚飾も偽善もなく、罪を認めるのである。」（同上 50, 51）

- c. パウロはどのように具体的に自分の罪を認めましたか。自分の改心の後に、彼はどのようなへりくだった態度（使徒行伝 9:3-6）を取りましたか（使徒行伝 26:10, 11）

「神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられているが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しとするようなことの少しもない、真心からの告白の精神が見られる。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えなかった。かれは次のように述べている、〔使徒行伝 26:10,11 引用〕。また、『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきてくださった』……わたしは、その罪人のかしらなのである」（テモテ第一 1:15）といっではばからなかったのである。」（同上 51, 52）

5. すべてであるか、まったくないか

- a. 神はご自分に何を捧げるようお求めになりますか。そしてそこには何が含まれますか(箴言 23:26; ルカ 14:33)。

「神は義認が行われる前に、心全体を明け渡すよう要求なさる。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 366)

「神に自分をささげるには、わたしたちを神から引き離すものをすべて捨てなければならぬ。であるから、『あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない』(ルカ 14:33)と救い主は仰せになっているのである。たとえ、どんなものであっても神から心を引き離すようなものは捨てなければならぬ。多くの人は富を偶像にしている。金を愛し富を欲することはかれらを悪魔につなぐ黄金のくさりである。ある人々は名声や世的な栄誉を神としている。また、なんの責任も負わず、利己的な安楽な生活を偶像にしている人もいる。しかし、こうしたどれいぎずなは断ち切らねばならぬ。わたしたちは、なかば神に、なかば世につくことはできない。全く神のものでなければ神の子供ではないのである。」(キリストへの道 55)

- b. なぜ取税人の憐れみを求める祈りは聞かれたのですか(ルカ 18:13, 14)。

「取税人の祈りが聞かれたのは、彼が手を伸ばして全能の神にしっかりとすがる信頼を示したからである。取税人にとって自分というものは、恥辱以外の何ものでもなかった。すべて神を求めるものは、これと同じでなければならぬ。哀れな嘆願者はすべての自己過信を否定する信仰によって、無限の能力を自分のものとしなければならぬ。

外見上どんなにりっぱに律法をまもってみても、それは単純な信仰と全的自己否定の代わりにはならない。しかし、人間は、自分で自分をむなしくすることはできない。ただキリストが働いてくださることに同意することができるに過ぎない。」(キリストの実物教訓 139)

個人的な復習問題

1. 真の悔い改めにはどの二つの事柄が含まれていますか。
2. 悔い改めはわたしたちがしなければならぬことというより、むしろどのようにわたしたちが受ける賜物なのですか。
3. 自分の罪の許しを受けるためにわたしたちは何をしなければなりませんか。
4. 真に悔い改めた人は罪に対する言い訳をしないことを何が示していますか。
5. 義認を受けるために、わたしたちは何を喜んでやめなければなりませんか。

許し

「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。」(テモテ第一 2:5)

「悔い改めは、許しと同様にキリストを通して与えられる神の賜物である。わたしたちが罪を自覚し、許しの必要を感じるのは、聖霊の感化を通してである。」(信仰と行い 38)

推奨文献： サインズ・オブ・タイムズ 1895年2月14日
1913年7月29日

日曜日

11月19日

1. キリストを通して

- a. イエス・キリストが成し遂げられた贖いを通して、神はわたしたちに何を提供されますか。また何の目的のためですか(コロサイ 1:14, 使徒行伝 26:17, 18)。

「イエスは、ひとりびとりの魂の事情をご存じである。自分は罪深い者だ、とても罪深い者だとあなたは言うだろう。あるいはそうかも知れない。しかしあなたが悪ければ悪いほど、イエスが必要なのである。主は泣いて悔い改める者を決してしりぞけられない。……主は、ふるえている魂に勇気を出しなさいと命じられる。主はゆるしと回復とを求めてみもとに来るすべての者を心よくゆるしてくださる……

イエスを避け所として求める魂を、主は告発とことばの争いから高めてくださる。だれも、またどんな悪天使も、このような魂を訴えることはできない。キリストはそうした魂をご自身の神また人としての性質に結びつけられる。」(各時代の希望中巻 396, 397)

「偉大な教師の目的は、魂の中における神のみかたちの回復である。」(クリスチャン教育の基礎 436)

- b. 罪人の許しにおいて今日、キリストはどの役割を果たされますか(ヘブル 4:15; テモテ第一 2:5)。

「[キリストは] ご自身を、人類の代表ばかりでなく、人類の仲保者となる資格を得られた。それによってすべての魂が望むなら、わたしには法廷に友がいると言うことができるためである。」(原稿リース 12 巻 393)

2. 神の許しはわたしたちの義認である

- a. 何が義認と許しは一つであり、同じものであることを示していますか(ローマ 3:24, 25)。

「許しと義認は一つであり、同じものである。信仰を通して、信徒は反逆者、すなわち罪とサタンの子の立場から、キリスト・イエスの忠実な臣民の立場へ移る。それは先天的な善のゆえではなく、キリストが彼を養子縁組によってご自分の子として受け入れてくださるからである。罪人は自分の罪の許しを受ける。これらの罪を自分の身代わりであり保証人であられるお方が負ってくださるからである。主はご自分の天父に次のように言われる、『これはわたしの子です。わたしは彼を死刑執行から救い、彼にわたしの生命保険証書—永遠の命—を与えました。なぜなら、わたしは彼に代わり、彼の罪のために苦しんだからです。彼はわたしの愛する子なのです』。こうして人は許され、キリストの義という美しい衣で覆われ、神のみ前に傷のない者として立つ。

罪人は過ちを犯すかもしれないが、憐れみなく捨てられるのではない。しかしながら、彼の唯一の希望は、神に対する悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰である。わたしたちの不義と罪を許すのは御父の権限である。なぜなら、キリストがご自分でわたしたちの罪を引き受けられ、わたしたちを死刑執行から救い、ご自身の義を着せてくださったからである。このお方の犠牲は完全に正義の要求を満足させる。」(信仰と行い 103, 104)

- b. 神が許される人々のために、どのような生活を変える結果が蓄えられていますか(ローマ 8:28-30)。

「贖いの働きには、とうてい人間の考え及ばない重要さが含まれている。『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである(コリント第一 2:9)。罪人がキリストの力に引きつけられて、高く掲げられた十字架のそばにいき、そこにひれ伏すときに、新しい創造が行なわれるのである。彼は、キリスト・イエスにあつて新しく造られた者となる。聖なる神もこれ以上何もお求めにならない。神ご自身が『イエスを信じる者を義とされるのである』(ローマ 3:26)。そして、『義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである』(ローマ 8:30)。罪のゆえに受けた恥辱と墮落は、たしかに大きなものであったが、贖罪の愛による栄光とほまれとは、更に大きいのである。神のみかたちに一致しようと努力する人類には、豊かな天の宝とすぐれた力が与えられて、墮落したことの無い天使たちよりもさらに高い地位におかれることになるのである。」(キリストの実物教訓 143, 144)

3. 神の許しを受け入れる

a. 放蕩息子の譬において、わたしたちは自分たちに対する神の許しの愛について何を学ぶことができますか(ルカ 15:20-23)。

「このたとえでは、放蕩むすこの愚かな行ないに対しては、なんの非難や侮辱のことも言われていない。むすこは、過去がゆるされ、忘れられ、永久に消し去られたことを感じる。同様に神は、罪人に対してこういわれる。『わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した』と(イザヤ書 44:22)。『わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない』(エレミヤ書 31:34)。『悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる』(イザヤ書 55:7)。『主は言われる、その日その時にはイスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない』(エレミヤ書 50:10)。

これは神が悔い改める罪人を快く受け入れてくださることの、なんと尊い確証であろう。」(キリストの実物教訓 185)

「キリストはこの〔神に許しはないというサタン〕発言の欺瞞を証明し、神は愛であられること、父親が自分の子供たちを憐れむように、主がご自分を畏れる者たちを憐れまれることを示すためにこの世に来られた。うまぶねから十字架まで救い主に従いなさい。このお方の無私の奉仕の生涯、園での苦悩、そして十字架上でこのお方の死に注目しなさい。そして、神には豊かな許しがあることを知りなさい。このお方は罪を忌み嫌われるが、人知を超えた愛をもって、罪人を愛しておられるのである。」(ビュー・アンド・ワールド 1911年1月19日)

b. 勝利者となるために、何を本当に信じなければなりませんか(マルコ 2:5)。

「多くの人があやまったのはこの点であって、イエスは個人的に、一人びとりにゆるしを与えられることを信じないのである。かれらは神のみ言葉をそのとおりに信じない。しかし、だれでも条件に従うならば、いかなる罪のゆるしも価なく与えられることを、はっきり知ることができるのである。神のみ約束は、自分のためではないなどという疑いは捨てねばならない。このみ約束は、悔い改める罪人一人びとりのためである。キリストが備えていたもう能力と恵みは、み使によって、信ずる魂一人びとりに与えられる。どんなに罪深いからと言っても、かれらのために死なれたイエスから能力と純潔と義とを受けることができないう人はない。イエスは罪に染んで汚れた衣をぬがせて、義の白い衣を着せようと待っておいでになる。死ぬことなく、生きよと招いておいでになるのである。」(キリストへの道 68, 69)

4. 人間の許しと神の許し

- a. 罪人が許される時、罪人もまた何をしなければなりませんか。許しの尺度は何ですか（ルカ 11:4; マタイ 6:15）。

「人をゆるさない精神を正しいと認めることはできない。他の人に対して無慈悲なものは、その人自身が神のゆるしのめぐみを受けていない証拠である。……

彼が以前にゆるしを受けたことは事実である。しかし彼の無慈悲な心は、彼が今、神が愛の中にゆるしをお与えになったことを拒んでいることを示している。彼は神から自分を引きはなし、ゆるしを受ける前となら変わりがない。彼は自分の悔い改めを否定した。そして彼の罪はあたかも彼が悔い改めなかったかのように彼の上におかれているのである。」（キリストの実物教訓 226, 227）

「許さない者は、神のあわれみを受ける唯一の通路を遮（しゃ）断しているのである。わたしたちを傷つけた者が、その悪を告白しないならば、彼らを許さなくともよいと考えてはならない。悔い改めと告白によって心を低くすることは、疑いなく彼らのなすべきことである。しかし、わたしたちは、彼らがあやまちを告白してもしなくても、わたしたちに対して罪を犯した者に対してあわれみの心を持たなければならない。どんなにひどく彼らがわたしたちを傷つけたとしても、恨みをいだき、自分の受けた危害について自己をあわれむ心を持つべきではない。神に対するわたしたちの罪を許されたいと望むように、わたしたちは、わたしたちに対して悪をなしたすべての者を許すべきである。」（祝福の山 142, 143）

- b. わたしたちに対して罪を犯した人々を、どれくらいまで許すべきですか（ルカ 17:3, 4）。
- c. イエスは、ご自分の死に対して責任のあった人々でさえ、どのように許されましたか（ルカ 23:34）。

「イエスは天父の前で、人類の助け主となられる権利を獲得しようとしておられた。敵のために祈られたキリストの祈りは世界を包含していた。それは、世の始めから時の終わりまで、かつて生存し、これからも生存するすべての罪人を含んでいた。すべての者の上に神のみ子を十字架につけた罪がおかれている。すべての者にゆるしが豊かにさし出されている。」（各時代の希望下巻 263）

5. 神の許しの豊かさ

- a. 神の許しはまた、わたしたちを罪の生活から回復させることを何が示していますか（ヨハネ第一 1:9（下句））。

「神の許しは、罪の宣告からわたしたちを解放する法的行為であるばかりではない。それは罪の許しであるだけでなく、わたしたちを罪から救うことである。心を変えるものは、あふれでる贖罪的愛である。ダビデは、『神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください』と祈った時、許しということを正しく理解していた（詩篇 51:10）。また彼は、『東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる』と言っている（詩篇 103:12）。」（祝福の山 143）

- b. 神の許しの恵みが悔い改めた罪人を義認するばかりでなく、従順の生活へと新たにすることが、どのようにわかりますか（テトス 3:3-8）。

「〔パウロ〕はテトスに、救いのためにキリストの功績に信頼すべきである一方、心の中に宿る神聖な恵みは生活のあらゆる義務を忠実に果たすように導くことを、教会に教えるよう命じた。」（聖化された生涯 87）

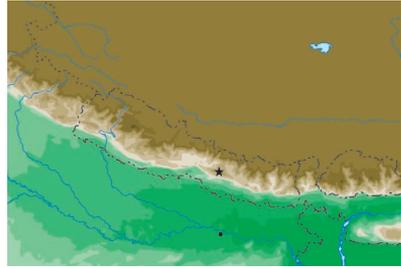
個人的な復習問題

1. なぜわたしたちはイエスを通してのみ許しを得ることができるのですか。なぜこのお方がわたしたち人類の墮落した人性にあずからなければならなかったのですか。
2. 誤ちに陥り失望している人々を、どのように励ますことができますか。
3. わたしたちが罪を犯した後、神のみ許へ戻ることができないと信じるよう誘惑される時、何を覚えているべきですか。
4. わたしたちは自分に対して罪を犯した人々をどのように取り扱うべきですか。もしわたしたちが他の人々を許すことを拒むなら、わたしたちはどうなりますか。
5. 神の許しを受け入れる人々の心の中に何が起こりますか。

第一安息日献金 ネパールの礼拝堂のために

ネパールは南アジアにある人口 2640 万人の国です。ネパール語を公用語とし多民族国家です。カトマンズが国の首都で最大の都市です。近代ネパールは非宗教の議会制共和国です。

非宗教ではありますが、ネパールでは改宗が禁じられており、人口のほとんどがヒンズー教徒と仏教徒です。しかしながら、いつも力強い主によって主の民が主の働きをなすための戸は開かれています。



ネパールに改革のメッセージが入ってから二、三年が経ちました。真理はこの国に深く根差してきました。そうでありながら、一方ではわたしたちは大敵が沈黙してはいないことをよく知っています。彼は選民をも惑わそうとほえたけるししのように歩き回っています。

この国には何人かの求道者がいます。特に SDA から出てきたグループがいて、わたしたちは彼らと共に教会の歴史—第一次世界大戦の間に起こった悲しい出来事—を研究してきました。この働きは、神の恵みによって確かな結果を实らせてきました。ここに魂のグループが三つあり、彼らはこの国において伝道の働きをしながら、現代の真理を勤勉に研究しています。しかし、実に改宗が禁じられている国家では非常に難しいのです。

「もし犠牲を払うべき時があるとすれば、それは今である。金銭を持っている人々は、今こそ、それを神のために用いる時であることを理解すべきである。資金を働きがすでに確立しているところに施設を増し加えるために使い尽くしてはならない。多くの関心が今集中しているところに建物に次ぐ建物を加えてはならない。新しい伝道地に施設を設立するために資金を用いなさい。こうして、あなたは魂を集めることができ、彼らは産出するために自分の役割を果たすようになるのである。

諸外国におけるわたしたちの使命を考えなさい。それらの中のある国々は一つの足がかりを得るのにさえ苦闘しているのである。彼らは最もつましい施設にさえ事欠いている。すでに十分あるところに施設を加える代わりに、これらの欠乏している伝道地に働きを設立しなさい。」(教会への証 6 巻 450)

遠近のすべての愛する兄弟方に、一画の土地を購入し、さらには新しくできたグループのためにネパールに一つの教会を建てることにおいて援助くださるよう、心からお願いいたします。

神が心を尽くしてこの使命に援助の手を貸してくださるすべての人を祝福して下さいますように。アーメン。

ネパールの皆さんの兄弟姉妹より

神から生まれる

「すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。」(ヨハネ第一 5:18)

「神の事柄に経験を持つということがどういうことかを知らない人々、信仰によって義認されることがどういうことかを知らない人々、自分がイエス・キリストに受け入れられているという御霊の証を持っていない人々は、新たに生まれる必要がある。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1896年 5月 12日)

推奨文献： 各時代の希望上巻 197-209

日曜日

11月26日

1. 招き

a. イエスはすべての人にどの招きをしておられますか (マタイ 11:28-30)。

「イエスの許へ来ることができるようになる前に、悔い改めに至らなければならないと考えるのは誤りである。ありのままキリストの許へ来なさい。そしてあなたの固い心が砕かれるまでこのお方の愛を熟考しなさい。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1901年 9月 3日)

b. ニコデモは何に感銘を受けましたか。なぜですか (ヨハネ 3:1, 2)。

「ニコデモは、バプテスマのヨハネが悔い改めとバプテスマについて説き、聖霊をもってバプテスマを授けられるおかたを人々にさし示すのを見聞きしていた。彼自身も、ユダヤ人の間に霊性が欠けており、彼らが頑迷さと世俗の野心に大いに支配されているのを感じていた。彼はメシヤが来臨されるとき、物事の状態がもっとよくなるようにと望んでいた。しかしバプテスマのヨハネの鋭いメッセージは、彼の心のうちに罪の自覚を起さなかった。彼は厳格なパリサイ人で、自分の善行を誇っていた。彼は、慈善心と、宮の奉仕を維持するために惜しまず献金することによって世間から尊敬されていたので、神の恵みは確実であると思っていた。」(各時代の希望上巻 200)

2. あなたは新たに生まれなければならない

- a. イエスによれば、人は天の王国を見ることができるようになる前にどうならなければならないでしょうか。それはなぜですか (ヨハネ 3:3)。

「[ニコデモ] はみ国が自分の現在の状態では見ることはできないほどきよいものであるという思いに驚かされた。」(各時代の希望上巻 200)

「人間は、自分で、自分のあやまちをさとすることはできない。「心はよるずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」(エレミヤ書 17:9)。わたしたちは心に思ってもいけないことなのに、いかにも心が貧しいかのように表現してみることができる。また、心の貧しさを神に訴えながら、自分がどんなにけんそんで義に富んでいるかを誇るることができる。ほんとうに自分を知る方法は、ただ一つしかない。それは、キリストをながめることである。人びとが自分の義を誇るの、キリストを知らないからである。神がどんなに清く、尊いかたであるかをめい想することによって始めて、わたしたちは、自分がどんなに弱く貧しく、またどんな欠点があるかを、そのまま見るようになる。わたしたちも、他のすべての罪人と同様に、自分の義の衣をまとして、墮落と絶望の中に沈んでいることをさとる。もし、わたしたちが救われたとするならば、わたしたち自身の善行によるのではなくて、全く神の無限の恵みによるものであることを知ることであろう。」(キリストの実物教訓 138, 139)

- b. イエスはどのようにこの真理をニコデモにさらに説明なさいましたか。そしてそれによってこのお方は何を仰せになっていたのですか (ヨハネ 3:4-6)。

「イエスはことばをつづけて、『肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である』と言われた (ヨハネ 3:6)。心は生れながらにして悪く、『だれが汚れたもののうちから清いものを出すことができようか、ひとりもない』のである (ヨブ記 14:4)。どんな人間の発明によっても、罪を犯している魂を救う道をみいだすことはできない。『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。』『悪い思い、すなわち、殺人、姦淫 (かんいん)、不品行、盗み、偽証、誹 (そし) りは、心の中から出てくるのである』(ローマ 8:7、マタイ 15:19)。流れが清くなるには、心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいろうとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変わることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによってのみ行われる。」(各時代の希望上巻 201, 202)

3. 向きを変える

- a. 福音はまたどの重要不可欠な祝福を含んでいますか。またそれはなぜですか（ガラテヤ 3:14; 使徒行伝 3:26）。
- b. なぜわたしたちは自分で罪深い生活から向きを変えることができないのですか（ローマ 8:7）。

「わたしたちは、自分の力で一度沈んだ罪の淵からのがれることはできない。また、わたしたちの悪い心を変えることもできないのである。『だれが汚れたもののうちから清いものを出すことができようか、ひとりもない』（ヨブ記 14:4) 『肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである』（ローマ 8:7) とある。教育、教養、意志の力、人間の努力などいずれも、それぞれ大切な役割をもっているが、心を新たにする能力は全くないのである。もちろん、わたしたちの行動にただ外面的な正しさは与えるかもしれないが、心を変えることもできなければ、生活の源泉をきよめることもできないのである。天よりの新しい生命がその人の内部に働かなければ、人は罪よりきよめられることはできない。この力というのはキリストである。キリストの恵みのみが人の力なき魂を生きかえらせて、これを神ときよきに導くことができるのである。

救い主も『だれでも新しく生れなければ』と言われた。すなわち、新しい生涯を送るための新しい心、新しい希望、目的、動機などが与えられなければ、『神の国を見ることはできない』のである（ヨハネ 3:3）。」（キリストへの道 15, 16）

- c. わたしたちは自分の罪深い心を自分自身で変えることができない一方、何はすることができますか（ヨシュア 24:15）。

「必要なのは意志の真の力とはなんであるかを理解することである。意志とは人の性質を支配している力、決断力、選択の力である。すべてはただ意志の正しい行動にかかっている。神は人間に選択の力を お与えになった。つまり人がそれを用いるようにお与えになったのである。わたしたちは 自分の心を変えたり、また自分で愛情を神にささげることにはできない。しかし、神に仕えようと選ぶことはできる。意志は神にささげることができる。そうすれば神はわたしたちのうちにお働きになって、神の喜ばれるように望み、また行うようにしてくださる。こうして性質は全くキリストのみたまたに支配されるようになり、キリストが愛情の中心となり、思想もまたかれと一致するようになる。」（同上 60）

4. どうしてそのようなことがあり得ましょうか？

- a. だれがわたしたちの心を変えますか。どのようにですか（ヨハネ 3:7, 8; ヨハネ 12:32）。

「風は木々のこずえに音をたて、葉や草花をさらさらと鳴らせるが、目に見えないので、だれも風がどこからきてどこへ行くかを知らない。心に働く聖霊の働きもこれと同じである。それは、風の動きと同じように、説明することができない。人は自分が信仰にはいった正確な日時と場所を言ったり、入信の過程における事情を始めから終わりまで説明したりすることができないかも知れない。だがそのことは、彼が信仰にはいっていないという証拠にはならない。風のように目に見えない力によって、キリストはたえず心に働きかけておられる。すこしずつ、おそらく本人の気がつかないうちに、魂をキリストへひきよせるのに役立つ印象が与えられているのである。こうした印象は、キリストについて瞑想したり、聖書を読んだり、あるいは説教者のことばをきいたりすることによって与えられるかもしれない。そしてみたまがもつと直接に訴えるとき、突然にその魂はよろこんでイエスに屈服する。多くの人をこれを突然の改心と呼ぶが、それは神のみたまが長い間その人を説得した結果、すなわち長期間にわたる忍耐強い作用の結果である。」（各時代の希望上巻 202）

「罪人はこの愛を拒み、キリストに引かれることを拒むこともできるが、逆らえば自然にイエスに引きよせられるのである。そして救いの計画を知ることになると、自分の罪が神の愛するみ子をこのように苦しめたことを悔いて、十字架のもとにひざまずくのである。」（キリストへの道 30）

- b. 「新しく生まれる」とは新しい心—新しい願望、目的、動機—を受けることです。新しく生まれるために、わたしたちは何をつねに食さなければなりませんか（ペテロ第一 1:23; 2:2）。

「真理が生活の中の不動の原則になるとき、魂は『朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変ることのない生ける御言によ』って『新たに生』れる。この新生は、キリストを神のことばとして受け入れた結果である。聖霊によって神の真理が心に刻まれると、新しい思いが喚起され、これまで眠っていた力が呼びさまされて神と協力する。」（患難から栄光へ下巻 219）

- c. 神はわたしたちの心を変えるためにどの光をお用いになりますか（コリント第二 4:6）。

5. 神の小羊を眺めよ

- a. わたしたちは変えられるために、イエスについて自分で何を悟らなければなりませんか (ヨハネ 3:14, 15; ヨハネ 1:29)。

「キリストは世の罪のために死なれた救い主として罪人の前に示されなければならない。カルバリーの十字架にかけられた神の小羊をながめる時はじめて、説明することのできない贖罪の神秘がわたしたちの心にも理解され、神の恵み深いことがわたしたちを悔い改めへと導くのである。キリストは罪人のために死なれて、はかり知れぬ大きな愛をあらわされた。罪人がこの愛を知るとき、深い感銘を受けて心はやわらげられ、悔い改めへと導かれるのである。」(キリストへの道 29)

- b. わたしたちが自らをキリストに明け渡すとき、何が起こりますか (エゼキエル 36:26, 27)。

「罪人がキリストの力に引きつけられて、高く掲げられた十字架のそばにいき、そこにひれ伏すときに、新しい創造が行なわれるのである。彼は、キリスト・イエスにあつて新しく造られた者となる。聖なる神もこれ以上何もお求めにならない。神ご自身が『イエスを信じる者を義とされるのである』(ローマ 3:26)。そして、『義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである』(ローマ 8:30)。」(キリストの実物教訓 143)

- c. わたしたちが新しく生まれるとき、何にのみ栄光を帰すのですか (ガラテヤ 6:14)。

個人的な復習問題

1. キリストはご自分の許へ来るすべての人に、どの重要不可欠な経験をお与えになりますか。
2. あなたは新しく生まれるとしたら、自分自身について何を悟らなければなりませんか。
3. なぜ正しいことをするのがこれほど難しいことを見出すのでしょうか。
4. もし新生を経験したければ、あなたは何をつねに食さなければなりませんか。
5. わたしたちがすべてをキリストに明け渡すとき、神は何をすると約束しておられますか。

聖化

「従順な子供として、無知であった時代の欲情に従わず、むしろ、あなたがたを召して下さった聖なるかたにならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである』と書いてあるからである。」(ペテロ第一 1:14-16)

「聖でないものから、聖なるものへの変化の働きは、継続的な働きである。日ごとに神は人の聖化のために労して下さる。そして、人は正しい習慣を培うことにおいて辛抱強い努力を払うことによって、このお方に協力しなければならない。」(ビュー・アンド・ワールド 1906 年 3 月 15 日)

推奨文献： 患難から栄光へ下巻 260-270

日曜日

12月3日

1. 神の民は聖なる者でなければならない
 - a. 神のどの特徴が天に行き渡っており、み前に出ることを望むすべての者のうちになくはなりませんか (ペテロ第一 1:14-16)。

「神の義は絶対的である。この義がこのお方のすべてのわざ、このお方のすべての律法の特徴となっている。神があられるとおりに、このお方の民もあらねばならない。キリストの命がこのお方に従う人々の生活の中に表されなければならない。公であっても個人的であってもこのお方のすべての行動、すべての言葉や行いには、実際の信心が見られた。そしてこの信心はこのお方の弟子たちの生活にも見られなくてはならない。」(セクレット・メッセージ 1 巻 198)

「〔神〕は、罪の存在に耐えることがおできにならない。それはこのお方の魂が憎まれるものである。……聖潔は、神の御座の基礎である。罪は聖潔の反対である。罪は神の御子を十字架につけた。もし罪がいかに憎むべきものであるかを見ることができれば、それに耐えることも、罪のうちにいるよう自らを教育することもしないはずである。彼らは生活と品性において改革するはずである。秘かな過ちは克服されるはずである。もしあなたが天において聖徒となるのであれば、まずこの地上で聖徒とならなければならない。」(牧師への証 145)

- b. 初めから、何が人類に対する神のご目的でしたか。聖書はわたしたちに対する神のみ旨について、何と教えていますか (エペソ 1:4; テサロニケ第一 4:3)。

2. 着せられ、また与えられる義

- a. 何が聖化は一瞬の働きではなく、漸進的な働きであることを示していますか。この目標に到達するために、どのような段階があげられていますか（ヘブル 6:1; ピリピ 3:13, 14; ペテロ第二 1:5-10）。

「聖書は、清めの働きが、漸進的なものであることをはっきりと示している。罪人が悔い改めて、贖罪の血によって神と和解するとき、キリスト者の生活ははじまったばかりである。彼は、『完全を目ざして進』み、『キリストの満ちみちた徳の高さにまで』成長しなければならない。使徒パウロは言っている。『ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである』（ピリピ 3:13, 14）。ペテロは、聖書が教える清めへと到達するための段階を、われわれに提示している。『それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を……加えなさい』（ペテロ第二 1:5, 6）。』（各時代の争闘下巻 198）

「わたしたち自身の救いのために働くべき方法は、ペテロ第二の手紙の第一章にはっきりと述べられている。絶えず、わたしたちは恵みに恵みを加えなければならない。こうするとき、神はわたしたちのために掛け算で働いて下さる。」（ビュー・アofd・ハルト 1906年3月15日）

- b. キリストの死によってわたしたちのために何がなされましたか。またキリストが宿っておられる人々の日々を経験はどのようなものとなりますか（ローマ 5:10）。

「わたしたちが義認される義は着せられ、聖化される義は与えられる。第一はわたしたちの天への肩書であり、第二はわたしたちの天への適性である。」（同上 1895年6月4日）

「義認とは魂を永遠の滅びから救うことを意味する。それは彼が聖化を、そして聖化を通して天の命を得ることができるときである。義認とは死んだわがから清められた良心が聖化の祝福を受けることのできるころへ置かれることを意味する。」（パイブル・コメンタリ [E. G. コット] 7巻 908）

「〔多くの人々〕は自分たちのすべての信仰と希望の基盤が、ただわたしたちの保証人であられるイエスの完全さであるべきことを悟っていない。唯一の本物の救う信仰は、キリストの着せられた義をつかむ信仰である。このお方が唯一の徳の源、霊的な力と命の源であられる。……この信仰の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意であり、そして〔この信仰をもっている教会員の〕目的は日々神に栄光を帰すこととなる。」（原稿リ-ス 5巻 9）

3. 聖化の働き

- a. わたしたちはキリストの義を着せていただきますが、一方聖化の働きはどのように徹底的に実行されるべきですか。また何のためですか(テサロニケ第一 5:23)。

「わたしたちの聖化は、御父、御子、そして聖霊の働きである。それは自らを神に結びつけ、聖なる交わりのうちに神と御子と御霊と共に立つ人々と神が結ばれた契約の遂行である。あなたは新たに生まれたであろうか。あなたはキリスト・イエスにある新しい存在になったであろうか。そうであれば、あなたのために働いておられる天の偉大なお三方に協力しなさい。」(パウロ・コモタリ [E. G. ホイトコメント] 7巻 908)

「聖霊の働き、すなわち真理の聖化を通して、信徒は天の宮にふさわしいものとされる。なぜなら、キリストがわたしたちのうちに働かれ、このお方の義がわたしたちの上にあるからである。これなしには、一人の魂も天への資格を得ることはない。わたしたちは聖霊の感化とキリストの義によってその聖なる雰囲気にもふさわしいものとされないかぎり、天国を楽しむことはない。」(レクテッド・メッセージ 1巻 395)

- b. どのようにしてこの働きは成し遂げられますか。罪人はその中でどのような役割を果たしますか(テトス 3:5)。

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。」(各時代の希望中巻 41)

「キリストがすべてであるが、わたしたちはすべての人に不屈の勤勉さを鼓舞すべきである。わたしたちは、狡猾な敵に打ち負かされることがないように、奮闘し、格闘し、身を悩ませ、見張り、祈らなければならない。これをなすことのできる力と恵みは神から来る。そしてその間ずっとわたしたちは、ご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救うことのおおきになるこのお方に信頼するのである。

勝利するという偉大な働きにおいて、人にはほとんど、あるいは何もすることがないという考えを提示してはならない。むしろ、勝利することにおいて成功するために、神と協力するべきことを人に教えなさい。」(レクテッド・メッセージ 1巻 381)

4. 聖書的な聖化

a. 何が聖書的な聖化ですか。それは何を含んでいますか(テサロニケ第一 3:13)。

「神の言葉と聖霊によって、神の律法の中に現われている義の大原則が、人間に示される。そして、神の律法は、『聖であって、正しく、かつ善なるものであり、神の完全の写しであるから、その律法に従って形造られる品性も、清いものとなる。キリストは、このような品性の完全な模範である。『わたし(は) わたしの父のいましめを守った。』『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている』と主は言われる(ヨハネ 15:10;8:29)。キリストの弟子たちは、彼のようにならなければならない。神の恵みによって、神の聖なる律法の原則に調和した品性を形成しなければならない。これが聖書のいう清めである。」(各時代の犬争闘下巻 197)

「聖書に示されている清めとは、全存在一霊と魂と体一を含むものである。」(同上 202)

b. 真に改心した信徒の経験はどのようなものとなりますか。そのような信徒は悔い改めの召しに応えるとき、何をなしたのですか(コリント第一 15:57)。

「キリスト者も罪の誘惑は感じるが、しかし常にそれと戦い続ける。ここにおいて、キリストの援助が必要になる。人間の弱さが神の力と結合する。そして信仰は、『感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである』と叫ぶのである。」(コリント第一 15:57)。(同上 198)

「改革を伴わない悔い改めは、真正なものではない。キリストの義は、告白されなくてもいなければ捨てられてもいない罪をおおう外衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である。聖潔とは神のために完全になることである。それは内住する天の原則に対して心と生活をまったく屈服させることである。」(各時代の希望中巻 377)

「神の事柄において日ごとの経験を持ち、快活に十字架を担いキリストに従うことによって日ごとに自己否定を実践するのでない限り、だれ一人生きたクリスチャンではない。すべての生きたクリスチャンは神聖な生活において日ごとに前進する。彼が完全に向かって前進するとき、毎日神への改心を経験する。そしてこの改心は彼がクリスチャン品性の完全、すなわち不死の仕上げの一触のために完全な準備に至るまで完成しない。」(教会への証 2巻 505)

5. 聖化の証拠

- a. 聖化の働きがなしとげられる心の経験はどのようなものですか。そのような人々の特別な喜びは何ですか（詩篇 119:14-16）。

「すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってはそれは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやこころざしと一体となり、われわれの心と意思とを一つにしてご自分のみこころに一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる。」（各時代の希望下巻 150）

- b. 真の聖化の証拠は何ですか（ミカ 6:8）。どのようにして悔い改めた罪人は道を知りますか（ヨハネ第一 2:3-6；ペテロ第二 2:21, 22）。

「内なる義は、外なる義によって証される。内が義なる人は思いやりや同情心のない者ではなく、日々キリストのみかたちに成長し、力から力へ進む。真理によって聖化されている人は自制心があり、恵みが栄光のうちに消失するまでキリストの足跡に従うのである。」（ビュー・アンド・ヘラルド 1895年6月4日）

個人的な復習問題

1. 聖なるものとなるというのは、どういう意味ですか。
2. 着せられる義と与えられる義の違いを述べなさい。
3. 聖化の働きはどのように成し遂げられますか。
4. 真の聖化からどのような結果がもたらされますか。
5. 魂が聖化されている証拠は何ですか。

今日のための義

「子たちよ。だれにも惑わされてはならない。彼が義人であると同様に、義を行う者は義人である。」(ヨハネ第一 3:7)

「義とは正しい行ないである。そしてすべての者は各自の行為によってさばかれる。わたしたちの品性は、わたしたちの行ないに現われる。行ないは信仰が本物であるかどうかを示す。」(キリストの実物教訓 292)

推奨文献： 信仰と行い 91-94

日曜日

12月10日

1. なぜわたしたちはみな義が必要か

a. 義とは何ですか。まただれにそれが惜しみなく与えられますか (マタイ 5:6)。

「義は聖であり、神に似ることである。そして『神は愛である』(ヨハネ第一 4:16)。義は神の律法にしたがうことである。なぜなら『あなたのすべての戒めは正しく(詩篇 119:172)、『愛は律法を完成するものである』からである(ローマ 13:10)。義は愛であり、そして愛は神の光であり、命である。神の義はキリストの中に具体化した。わたしたちはキリストを愛することによって義を受けるのである。(祝福の山 22)

義が得られるのは、苦しい戦いやつらい労苦によってではなく、ささげものや犠牲によってでもない。それはそれを受けたいと飢えかわくすべてのものに無償で与えられるのである。」(祝福の山 22)

b. 義を見出すために、わたしたちはどこを見なければなりませんか (イザヤ 45:22-25)。

「神に受け入れられるために義を探して自らを見ると、わたしたちは間違った場所を見ているのである。『すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって』いるからである(ローマ 3:23)。わたしたちはイエスを見なければなりません。なぜなら、『わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく』からである(コリント第二 3:18)。あなたは世の罪を取り除く神の小羊を眺めることによって自分の完全さを見出さなければなりません。」(信仰と行い 108)

2. キリストがわたしたちの義となられる

- a. わたしたちはキリストの義をどのようにして自分自身のものにすることができますか（ローマ 3:24-26）。

「キリストの恵みは罪人の側の功績も権利もなく彼を惜しみなく義と認める。義認は十分に於て完全な罪の許しである。罪人が信仰によってキリストを受け入れる瞬間、その瞬間に彼は許される。キリストの義が彼に着せられるのである。」（SDA パブル・コメンタリー [E・G・コウト・コウト] 6 巻 1071）

「キリストは精神をご覧になる。そしてわたしたちが自分の重荷を信仰をもって担っているのをご覧になるとき、このお方の完全な聖潔がわたしたちの不足を贖うのである。わたしたちが自分の最善を果たすとき、このお方はわたしたちの義となられる。」（信仰と行い 102）

- b. キリストの義を受け入れるにあたり、なぜ恵みがそれほど重要なのですか。なぜ義認において行いは強調されていないのですか（ローマ 4:3-5）。

「キリストの恵みがなければ、罪人は希望のない状態である。彼のためにできることは何もない。しかし、神聖な恵みを通して、超自然的な力がその人に与えられ、思いと心と品性に働く。罪がその憎むべき性質のうちに識別され、ついには魂の宮から追い出されるのは、キリストの恵みが与えられることを通してである。わたしたちが救いの働きにおいてこのお方と共に行動するためにキリストとの交わりに入れられるようになるのは恵みを通してである。信仰は神が罪人に許しを約束されるのにふさわしいと思われた条件である。それは救いを功績として受けるような価値が信仰にあるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた治療法をつかむことができるからである。信仰はキリストの完全な従順を、罪人の不法と欠点の代わりに提示することができる。罪人がキリストを自分の個人的な救い主だと信じる時、そのときこのお方のたがわぬ約束に従って、神は彼の罪を許し、惜しみなく彼を義と認められるのである。悔い改めた魂は、キリストが自分の身代わりまた保証人として自分のために死なれ、自分の贖罪であり義であられるがゆえに、自分の義認がもたらされたことを悟る。」（同上 100, 101）

「人が自分自身の力でできる最高の努力は、自分が犯した聖にして義なる律法に見合う価値がない。しかしキリストを信じる信仰を通して、彼は神の御子の義を完全に十分なものとしてわがものと主張することができる。……本物の信仰はキリストの義を自分のものとし、罪人はキリストと共に勝利者とされる。なぜなら、彼は神性にあずかる者とされ、こうして神性と人性が結合するからである。」（同上 93, 94）

3. 家族の中に見られるべき義

- a. わたしたちが自分の家庭において祝福となることができる前に、何が必要ですか（ヨハネ 1:12）。

「キリストを受け入れたものは、キリストの恵みが彼らに何をしたかを家庭で示すべきである。『彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである』（ヨハネ 1:12）。キリストを本当に信ずる者には意識的な権威がじゅうまんしていて、それが家庭全体にわたって感じられる。それは家庭の全員の品性の完成にとって有益である。」（アドベンチスト・ホーム 29）

- b. わたしたちは家庭にいる周囲の人々に対して、どのような態度をとるべきですか（コロサイ 3:12, 13）。

「すべてのクリスチャンホームから清い光が照りいであるべきである。愛は行為に表されるべきである。それは家庭のすべての交わりの中に流れ出、思いやり深い親切の中に、やさしい無私の礼儀正しさの中にしめされなければならない。」（アドベンチスト・ホーム 30,31）

「お互いの親切と忍耐とは家庭を楽園にし、家庭全体の中に天使をひき寄せるであろう。」（同上 480）

「他人に対する同情心を養いなさい。快活さ、親切、愛を家庭の中にひろげなさい。これは、宗教上の務めに対する愛をも増してくれる。そして大小の義務を心軽やかに行うようになる。」（同上 493）

- c. 家族の一員として、わたしたちは各自にとって、何が目標ですか（マタイ 5:14-16）。

「クリスチャンのなすべき第一の働きは家族が一致していることである。それから近所の人々や遠くに住む人々の為に働かなければならない。光を受けた人はそれをはっきりかがやかさなければならぬ。彼らの語ることはキリストの愛のかおりを持って命に至らしめるものでなければならぬ。」

「家族のものが一致していればいるほど、父親や母親やむすこやむすめが家庭の外で及ぼす感化はもっと励ましを与え助けを与えるものとなる。」（同上 31）

4. 教会でキリストのようになる

- a. わたしたちは他の人々に対してどのような態度をとるべきですか（ピリピ 2:3）。この態度は、どのようにわたしたちのキリストへの依存に影響を及ぼしますか。

「わたしたちが自分自身の義ではなく、キリストの義により頼まなければならないのは、わたしたちが義人だからではなく、わたしたちが依存しており、欠点や過ちが多く、自分自身では何もできないからである。」（天国で 23）

- b. わたしたちは信仰にある者同士互いにどのような特別な敬意を払うべきですか（ローマ 12:10）。

「真の家族の人々が互いに助け合い、病める者を看護し、弱いものをささえ、無知な人に教え、経験のない者を訓練していくように、信仰の家族においても貧しいものや無力な者の世話をしなければならない。どんな理由があっても、こうした人々をほうって置いてはならない。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 179）

「わたしたちはこの生涯において共に愛と一致のうちに宿ることができるようにするだけのキリストの恵みを得なければならない。さもなければ、決して来たるべき生涯において共に宿することはできない。」（この日を神と共に 372）

「キリストに近づけば近づくほど、私たちは互に近くなる。神の民が一致して協力的な行動をとるとき、神があがめられる。」（アドベンチスト・ホーム 191）

- c. わたしたちが教会員としてキリストを受け入れ、聖化されているという事実についての証拠は何ですか（エゼキエル 20:12）。わたしたちがキリストの義を自分自身のものとしないうち、何が起こりますか。

「ユダヤ人に与えられた制度の中で彼らを周囲の国民から区別するのに安息日ほど役立つものはなかった。神は、安息日を守ることが神の礼拝者である証拠となるように計画された。それは、彼らが偶像礼拝から離れ、真の神とつながっていることの証拠となるのであった。しかし安息日を聖とするためには、人は自ら聖でなければならない。信仰によって彼らはキリストの義にあずかる者とならねばならない。……

ユダヤ人が神から離れ、信仰によってキリストの義を自分の義としなかったとき、安息日は彼らにとって、その意義が失われた。」（各時代の希望上巻 364）

5. 世に対して真の伝道者となる

- a. わたしたちは自分たちの周囲の人々に、どのようにして真にキリストとその義を反映することができますか(ヨハネ 15:4, 5)。

「自分たちの言葉と行為によって、わたしたちは品性を変える真理の力を表すことができる。わたしたちは各自、自分自身が作り出した義ではなく、キリストの義により頼んでいることを表すことができる。わたしたちはぶどうの木に枝が宿っているようにキリストに宿り、このお方が働かれたように働き、自分の兄弟たちにとって助けとなり祝福となることを喜ぶようなこのお方との生きたつながりを持っていることができる。わたしたちは、キリストの御目に喜ばれることをしながら、キリストのわざをすることができます。」(エリ・G・柯什 1888 年原稿 137, 138)

- b. 他の人々を扱うにあたり、わたしたちは神のどの特質を習おうと努めるべきですか(詩篇 119:88; 69:16)。

「私たちは自己を忘れ、どんな小さなことについても他人から与えられた行為に感謝の気持ちを表す機会を絶えず求め、他人を喜ばせ、やさしい親切な行為と小さくても愛を示す行いをすることによって、他人の悲しみと重荷を軽くし、救いの機会をうかがうようにしなければならない。このような思慮深い礼儀正しさは、まず家族の中から始めて家族以外の人へひろげてゆけば、生活の全体を幸福なものにする。そしてこれらの小さなことを無視することは生活の全体をにがく悲しいものにするのである。……

キリストと一致していて、しかも他人に対して不親切であり、他人の権利を顧慮しないということはありません。」(アドベンチスト・ホーム 487)

個人的な復習問題

1. わたしたちが神に受け入れられるために、どこを見るべきですか。
2. イエスは罪人をどのように許されますか。この許しはどれほど完全ですか。
3. わたしたちはクリスチャンとして自分の働きをどこから始めるべきですか。またこれには何が含まれますか。
4. もしわたしたちがここで自分の兄弟たちと愛と一致のうちに生きることができないとすれば、将来の生活において、どのような希望がありますか。わたしたちは互いにどのように扱うべきですか。
5. わたしたちは他の人々に対して神の愛をどのように示すことができますか。もしわたしたちが他の人々に対して不親切であれば、それは何を明らかにしていますか。

キリストにあって完全

「そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされている（完全な）のである。彼はすべての支配と権威とのかしらであり」（コロサイ 2:10）

「キリストを信じる信仰によって、品性のあらゆる欠陥が補われ、あらゆる汚れが清められ、あらゆる欠点が直され、そしてあらゆる美徳が発達させられるのである。」（教育 304）

推奨文献： 思い、品性、個性 1 巻 27-37

日曜日

12月17日

1. 完全になるよう召されている

- a. イエスはこの地上の世界において、わたしたちにどうなるよう召しておられますか（マタイ 5:48）。

「神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりもっと高い。『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』（マタイ 5:48）。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。」（各時代の希望中巻 20）

- b. わたしたちの生涯は、どなたのみかたちに完全に一致していなければなりませんか（ローマ 8:29）。

「クリスチャン品性の理想は、キリストに似ることである。人の子キリストが、その生活において完全であられたように、キリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。イエスは、あらゆる点において、兄弟たちと同じようになられた。イエスは、われわれと同じように、肉体をおとりになった。彼は飢え、渇き、お疲れになった。主は、食物によって力づけられ、睡眠によって元気を回復された。イエスは、人と同じ身分でありながら、しかもきずのない神のみ子であられた。イエスは、肉体をとられた神であられた。キリストのご品性がわれわれのものとなるのである。」（各時代の希望中巻 20）

2. 今、イエスのうちにあって完全に

- a. わたしたちが罪の許しと新生を経験した後、どの励ましに満ちた宣言がなされますか (コロサイ 2:10)。

「わたしたち自身のよいわざを通しての完全は決して得ることができない。イエスを信仰によってみる魂は、自分自身の義を拒絶する。彼は自らを不完全なものとして認め、自分の悔い改めは不十分で、自分の最も強い信仰も弱いものにすぎず、自分の最も高価な犠牲もわずかにすぎず、彼はへりくだりのうちに十字架の足元に沈む。しかし、神のみ言葉の託宣から声が彼に語る。驚きのうちに、彼は次のメッセージを聞く、『あなたは彼にあって完全である』。今や彼の魂のうちですべてが平安である。もはや彼は自分自身のうちに何か価値あるもの、神の恩寵を得るための何か功績のある行いを見出そうと奮闘しなくてよいのである。」(信仰と行い 107, 108)

- b. 信仰によって義認されたら、わたしたちはどの状態に続けなければなりませんか (コロサイ 4:12 (下句))。

「主イエスは聖霊を通して行動される。なぜなら、聖霊はこのお方の代表だからである。聖霊を通してこのお方は魂に靈的な命を吹き入れ、善に対する魂の活力を目覚めさせ、道徳的な汚れから清め、そして魂にご自分の御国への適性をお与えになるのである。イエスは授けるべき大きな祝福、人々の間に分配すべき豊かな賜物を持っておられる。このお方は素晴らしい勧告者であられ、知恵と力において無限であられる。そしてもしわたしたちがこのお方の御霊の力を認め、聖霊によって形作られるべく屈服するならば、このお方のうちに完全な者となるのである。これは何という思想であろう! キリストのうちには、『満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされている (完全な) のである』(コロサイ 2:9, 10.)。」「わたしたちの高い召し 152)

- c. わたしたちの仲保者としてイエスは信仰によってご自分に宿る人々のために、決して何をおやめになりませんか (ヘブル 7:25 (下句))。

「イエスは至聖所の中に、今やわたしたちのために神のみ前に現れるために立っておられる。そこで、このお方は一瞬一瞬、ご自分のうちにあって完全なご自分の民を提示されることをおやめにならない。しかし、わたしたちは御父の前にこのように表わされるからと言って、自分たちがこのお方の憐れみにつけ込み、不注意で無関心で自分に甘い者になっても良いと思っはならない。キリストは罪に仕えるお方ではない。わたしたちは信仰によってわたしたちがこのお方のうちに宿るときのみ、このお方のうちにあって完全なのであり、愛されるお方のうちにあって受け入れられるのである。」(信仰と行い 107)

3. 今日受け入れられる従順

- a. 神を喜ばせようとする努力において、わたしたちはどの重要不可欠な真理を理解しなければなりませんか（ピリピ 2:12, 13）。

「律法を守る自分自身の行為によって天国へ行こうとしている人は、不可能なことを試みているのである。人は従順なしには救われることができないが、彼の行いは自分自身のものであるべきではない。キリストが彼のうちに働き、その願いを起こさせ、ご自分の良しとされるところをなして下さらなくてはならない。もし人が自分自身の行いによって自らを救うことができるとすれば、彼には自分自身のうちに何か喜ぶべきものがあることであろう。人が救いを得るために自分自身の力でなす努力は、カインの捧げ物として表されている。人がキリストなしにできることはみな、利己心と罪に汚れている。しかし信仰通してなされることは神に受け入れられる。わたしたちがキリストの功績を通して天を得ようとするとき、魂は進歩する。わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエスを仰ぎつつ、わたしたちは力から力へ、勝利から勝利へと進んでいくことができる。なぜなら、キリストを通して神の恵みがわたしたちの完全な救いを実現してきたからである。」（ヘレテッド・メッセージ 1 巻 364）

- b. だれの努力と宗教的な奉仕が神に受け入れられなかったのですか。またそれはなぜですか（ルカ 18:11, 12）。
- c. わたしたちのよい行いは、どのようにしてのみ神に受け入れられるものとなりますか（ヘブル 7:25）。

「真の信徒からの宗教的な礼拝、祈り、賛美、悔い改めた罪の告白は、天の聖所へと香のようにのぼる。しかし、人類という堕落した水路を通っているため、それらは血によって清められない限り汚れており、神にとって決して価値あるものとならない。それらはしみのない純潔のうちにのぼるのではない。そして仲保者、すなわち神の右におられるお方が、すべてをご自分の義によって提示し清めて下さるのでなければ、神に受け入れられないのである。地上の幕屋から上るすべての香は、キリストの血の清めのしずくによって潤されなければならない。このお方は御父の前でご自身の功績の香炉をもっておられる。その香炉の中には地上の堕落というしみは何もない。このお方はこの香炉にご自分の民の祈り、賛美、告白を集め、それらにご自身のしみのない義を入れられる。それから、キリストの贖いの功績に香りづけられて神のみ前に香が立ち上り、完全に十分に受け入れられるのである。それから、恵み深い答えが戻ってくる。」（ヘレテッド・メッセージ 1 巻 344）

4. 今日完全になる

- a. キリストのうちに宿り、神に受け入れられているという完全な保証をもって、わたしたちは今何をしなければなりませんか（ヘブル 6:1）。

「わたしたちは自分の魂がしみのないものでないかぎり、決して平安のうちに主に
お目にかかることはできない。わたしたちはキリストの完全なみかたちを担わな
なければならない。すべての思想はキリストのみ旨に従わせられなければならない。偉
大な使徒が表現しているように、『キリストの満ちみちた徳の高さにまで至』らな
なければならない。わたしたちは真剣な努力なしには決してこの状態に至ることは
ない。わたしたちはもしクリスチャン品性の完全に到達したければ、日ごとに外の悪と
内の罪に対して奮闘しなければならない。」（ヘブレイク・メッセージ 3 巻 148）

- b. 信徒として神に従うための自分の最上の努力において、そうするためのわたしたちの力はどこにありますか（コリント第二 3:5）。

「キリストはわたしたちの型、わたしたちが従うようにと与えられた完全で聖なる
模範であられる。わたしたちは決して型と等しくなることはできない。しかし、わた
したちの能力に従ってそれを模倣し、似ることはできる。」（あなた方は力を受ける
であろう 369）

「心の中で神に従うなら、この目的のために努力するなら、イエスはこの気質と努
力を人間の最高の奉仕として受け入れて下さる。そして足りないところをご自身の神
聖な功績で埋めてくださるのである。」（ヘブレイク・メッセージ 1 巻 382）

「イエスをご自分の子らを、たとえ彼らが誤っても……愛しておられる。このお方
はご自分の目を彼らにとめておられる。そして、彼らが最善を尽くして、神に助けを
求めるとき、奉仕は不完全であっても受け入れられることを確信していなさい。」（同
上 3 巻 195, 196）

- c. わたしたちが完全へと進むとき、聖霊はわたしたちの心の内に広く何を降り注が
れますか。これは何をするようにわたしたちを導きますか（ローマ 5:5; ヨハネ第
一 3:18）。

「人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチ
アン品性は完成する。」（患難から栄光へ下巻 254）

「信仰があるところには、良い行いが現れる。病人が訪問され、貧しい人が世話
を受け、孤児と寡婦がなおざりにされず、裸の者は着せられ、欠乏している者が
養われる。キリストは良いことをしながら巡回された。そして人がこのお方と一致す
るとき、彼らは神の子らを愛し、柔和と真理が彼らの歩みを導くのである。」（ヘブ
レイク・メッセージ 1 巻 398）

5. わたしたちの救いの確証

- a. 悔い改めた罪人に差し出される罪の許しは、どれほど完全ですか（ヨハネ第一 1:9）。

「わたしたちのために払われた犠牲を通して、罪は完全に許されることができる。わたしたちが依存するのは、人に何ができるかではない。それは神がキリストを通して人のために何がおできになるかである。わたしたちが神に完全に自らを明け渡し、完全に信じる時、キリストの血はすべての罪から清める。良心は呵責から自由にされることができる。このお方の血を信じる信仰を通して、すべての人はキリスト・イエスのうちに完全にされることができる。わたしたちが不可能を扱っているのではないことを神に感謝しなさい。わたしたちは聖化を主張することができる。わたしたちは神の恩寵を享受することができる。わたしたちはキリストと神がわたしたちについてどう思われるかを心配してはならない。そうではなく、神がわたしたちの身代わりであられるキリストについてどう思われるかを切に思うのである。……主は悔い改め信じる者に、キリストご自身に似た姿にかたどられ形成されるために魂を明け渡すとき、キリストがお受入れになることを示される。」（ヘレグッド・メッセジ 2巻 32, 33）

- b. 今日、わたしたちを罪の力から救う神の能力について、わたしたちにはどのような保証がありますか（ユダ 1:24; ペリピ 1:6）。

「キリストが魂を支配なさるときに、そこには、純潔と、罪からの自由がある。福音の計画の栄光と、その満ち満ちた完全さが生活の中に完成されるのである。救い主を受け入れることによって、完全な平和、完全な愛、完全な確証の喜びを味わうことができる。神が確かにみ子を世の救い主として、世界に送られた証拠として、わたしたちの生活のなかに、キリストの品性の美とかぐわしさがあらわれるのである。」（キリストの実物教訓 395, 396）

個人的な復習問題

1. 「あなたがたも完全な者となりなさい」は、どのように命令と約束の両方であるのかを説明しなさい。
2. なぜ今日イエスの仲保はわたしたちのためにこれほど重要なのですか。
3. 今日、わたしたちのすべての行いが神に受け入れられるものとなるために、何が必要とされていますか。
4. 今日実際の水準において完全になることは信徒にとって何を意味していますか。
5. 今日、わたしたちの救いについて、どのように完全な保証を得ることができますか。

第三天使のメッセージそのもの

「彼らの口には偽りがなかった。なぜなら、彼らは神のみ座の前に傷のない者だからである。」(黙示録 14:5)

「幾人かがわたしに信仰による義認のメッセージは第三天使のメッセージなのかと問うて手紙を書いてきた。そこでわたしは次のように答えてきた、『それは第三天使のメッセージそのものである』と。」(ビュー・アンド・ヘルド 1890 年 4 月 1 日)

推奨文献： 信仰によってわたしは生きる 209-215

日曜日

12月24日

1. 回復された基本的な真理

- a. 何が福音の希望であり、またこれほどのように黙示録 14:6-12 の三重のメッセージと関連していますか (黙示録 14:6; コロサイ 1:23, 26-28)。

「キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわ そうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」(キリストの実物教訓 47)

- b. 再臨運動に続いて、どの重要な教理が回復されましたか。これらの人々は何になりましたか (イザヤ 56:1, 2; 58:12)。

「主はキリスト教を永遠の基礎の上に設立するためにわたしたちにこの時代のためのメッセージを送ってこられた。そして現代の真理を信じるすべての人々は自分たち自身の知恵ではなく、神にあって立たなければならない。そして代々の基を立てなければならない。これらの人々は天の書に破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者として登録される。わたしたちは、最も苦い反対に直面しても、真理が真理であるがゆえに維持しなければならない。神は人の思いに働いておられる。働いているのは人だけではない。大いなる啓発力はキリストからである。このお方の模範という輝きはすべての説教の中で人々の前につねに保たれていなければならない。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1152)

2. 信仰の一致

- a. どの賜物がこの時代のための特別な真理を真心からの再臨信徒たちが識別できるようにしますか (コリント第一 12:28)。

「神は民を世から導き出し、永遠の真理という高められた土台、すなわち神の戒めとイエスの信仰の上へ導いておられる。このお方はご自分の民を律し、整えられる。一人は一つのことを信じ、他の人は全く正反対の信仰と見解を持ち、各自が体から独立して動くというような不一致な状態とはならない。このお方が教会に置かれた多様な賜物と管理を通して、彼らはみな信仰の一致へ至るのである。もし一人が自分の兄弟たちの意見に関係なく、聖書の真理について自分の見解を取り、自分の道を正しいとして、自分自身の特別な見解を取る権利があると主張し、他の人々にそれらを押し付けるとしたら、彼はどうやってキリストの祈りを成就することができようか。」(牧師への証 29, 30)

- b. 教会の一致は真理のためのわたしたちの証にどのように効果を及ぼしますか (ヨハネ 13:35)。

「不信者と世俗の人々に意識的な感化力を発揮できるようにするのは、教会における一致である。」(彼を知るために 153)

「わたしたちの一致と互いへの愛は、神が罪人を救うためにご自分のひとり子をつかわされたことを世に証する信任状である。」(この日を神と共に 120)

- c. もし信徒たちが十分な信仰のうちにキリストの義の賜物を受け入れたとしたら、何が可能になっていたはずですか (エペソ 4:13)。

「わたしたちの品性をキリストのみかたちへと変えるのは、聖霊、慰め主、すなわちイエスが世に遣わすと言われたお方である。そしてこれが成し遂げられるとき、わたしたちは鏡に映すように、主の栄光を反射するのである。つまり、このようにキリストを眺める人の品性は、このお方のご品性ようになり、彼の品性を見る人は、鏡からのようにキリストご自身のご品性が輝き出ているのを認めるのである。自分では気がつかないうちに、わたしたちは日々自分自身の方法と意志から、キリストの方法とご意志へ、このお方のご品性の麗しきへと変えられていく。こうしてわたしたちはキリストへと成長し、気づかないうちにこのおかたのみかたちを反映するのである。」(ビュー・アズ・ワルド 1891年4月28日)

3. 裁き

- a. どのような大いなる光景が預言者ダニエルに示されましたか。またそれはいつ始まりましたか。キリストの奉仕は、それとどのように関連していますか（ダニエル 7:9, 10, 13, 14; ヨハネ第一 2:1; ダニエル 8:14）。

〔ダニエル 7:13, 14 引用〕。ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる「主権と光栄と国」とをお受けになるためである。二千三百日の終わりである一八四四年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる。それは、調査審判の働きであり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである。（各時代の争闘下巻 211）

- b. もしわたしたちがキリストの着せられた義を受け入れ、このお方の与えられた義の力によって生きてきたならば、どのようにこの裁きに立つようになりますか（伝道の書 12:14; マタイ 12:36, 37）。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。……

「悔い改めず棄て去っていない罪は、許されず、記録の書からぬぐい去られない。それは、神の大いなる日に、罪人に不利な証言をする。その悪行は、昼の明るみで行なわれたものかもしれないし、あるいは夜の暗やみの中で行なわれたものかもしれない。しかし、いずれにしてもそれらは、われわれが申し開きをしなければならぬ神の前には、そのままはっきりとあらわれていた。神の天使たちが、ひとつひとつの罪を目撃し、それを誤りなく記録した。罪は、父母や妻子、そして同僚たちからは、隠し、否定し、秘密にしておくことができるかもしれない。罪を犯した者たち以外は、だれもその罪悪を疑ったりなどしないかもしれない。しかし、天の知的存在者たちの前には、それはあらわにされている。……人間は心の汚れた人々に欺かれるかもしれないが、神は、すべての見せかけを見破り、内的生活を読みとられる。」（同上 215, 219）

4. 罪の除去

- a. この印する働きの中に聖化されてきた人々の状態と品性について、何が明らかにされますか (黙示録 14:1-5)。

「キリストの義のしみのない衣は、試され、誘惑され、それでいながら忠実な神の子らの上に着せられる。蔑まれた残りの民は栄光に満ちた衣をまとい、二度と世の墮落に汚されることはないのである。彼らの名前は小羊の命の書にとどめられ、各時代の忠実な者たちの間に登録されている。彼らは欺瞞者の策略に抵抗してきた。彼らは龍のほえたける声にも自分たちの忠誠を翻すことがなかった。今、彼らは永遠に誘惑者の考案から安全なのである。」(教会への証 5 巻 475)

- b. 死せる義人、それから生ける義人の裁きの中に天の聖所では、どのような素晴らしい取引が行われていますか (使徒行伝 3:19)。

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後の雨)とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならぬ慰めを、受けることができなかった。」(初代文集 149)

- c. イエスが来られるときに、わたしたちはどのような霊的な状態になければなりませんか (ヘブル 12:14; ペテロ第二 3:14)。

『「しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい」(ペテロ第二 3:14)。これこそ、すべてのクリスチャンが奮闘しなければならない標準である。自分自身の生来の能力においてではなく、イエス・キリストから自分に与えられる恵みを通してである。わたしたちはすべての罪に対して勝利を得るように、そしてすべての性急で不機嫌な表現を抑制できるように格闘しよう。」(わたしたちの高い召し 235)

「サタンは、神の御子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」(各時代の争闘下巻 397)

5. 義なる勝利者

- a. 終わりの時代の諸教会の欺瞞から神の民を守るために、どのような厳粛な警告が与えられていますか。この知識のある人々にどの責任がありますか（黙示録 14:9-11; エゼキエル 33:2-4）。

「第三天使のメッセージは最高の重要性を持つものとみなされるべきである。それは生死の問題である。このメッセージによって与えられる印象は宣布される真剣さと厳粛さに比例したものとなる。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 980)

- b. 勝利者であり、こうしてイエスの再臨の時にお会いする準備のできている人々について何とされていますか（黙示録 14:12）。

「神の御名で呼ばれる民—この地上で自分たちの忠誠に対して証をしてきた人々。彼らはだれであろうか。神の戒めを守り、イエス・キリストの証を守ってきた人々である。十字架につけられたお方を自分の救い主として自分自身のものとしてきた人々である。」(同上 981)

「キリストについて信ずるだけでは十分でない。キリストそのものを信じなければならない。われわれを益する信仰は、キリストを自分自身の救い主として信ずる信仰、キリストの功績を自分自身のものとする信仰だけである。信仰を一つの意見として持っている人が多い。人を救う信仰は、キリストを受け入れる者が神との契約関係にはいる一つの取引きである。真の信仰はいのちである。生きた信仰とは、活力と信頼心が増し加わり、それによって魂が勝利する力となることを意味する。」(各時代の希望中巻 74, 75)

個人的な復習問題

1. わたしたちは、どの意味において「破れを繕う者」となるべきですか。
2. 教会において、一致を持つことが、なぜそれほど重要なのですか。どのようにしてそれができますか。
3. わたしたちの罪を除去していただくために、どの状態にならなければなりませんか。
4. 神が要求される品性の標準に、どのようにして到達することができますか。
5. キリストについて信じるだけでは、なぜ十分ではないのですか。それは何を意味しますか。

第一安息日献金



10月7日

アルゼンチンにある南アメリカ南部の本部改修のために
(4ページ参照)

11月4日

伝道地のための文書
(25ページ参照)



12月2日

ネパールの礼拝堂のために
(46ページ参照)

